

# 社 会

## (歴史的分野)

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	歴史 705	A B 308	令和2年
17	教育出版	教 出◆	歴史 706	A B 318	
46	帝国書院	帝 国◆	歴史 707	A B 310	
81	山川出版社	山 川◆	歴史 708	A B 296	
116	日本文教出版	日 文◆	歴史 709	A B 336	
227	育鵬社	育鵬社	歴史 710	A B 320	
229	学び舎	学び舎	歴史 711	A 4 308	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
7冊	東書、教出、帝国、山川、日文、育鵬社、学び舎

## 2 学習指導要領における教科・分野の目標等

### 【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 【歴史的分野の目標】

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

### 【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 「第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点」から抜粋】

#### (2) 各分野の改訂の要点

##### 〔歴史的分野〕

歴史的分野における改訂の要点は、主に次の5点である。

##### ア 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視

各中項目のイの(ア)に「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を踏まえた課題(問い)の設定などに結び付く着目する学習の視点を示し、類似や差異を明確にし、因果関係などで関連付ける等の方法により考察したり、表現したりする学習について示した。

また、各中項目のイの(イ)に、「各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現」する学習を明示した。平成20年改訂では内容の(1)「歴史のとらえ方」の中項目ウにおいて、「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」と示されてきた。今回の改訂では、中項目ごと

にこれらを示し、「まとめ」としての学習を行うことを一層明確にしたものである。

#### イ 歴史的分野の学習の構造化と焦点化

(1)、(2) …の中項目内のアに示した「知識及び技能を身に付ける」学習と、イに示した「思考力、判断力、表現力等を身に付ける」学習との関係や、それらの各事項に示した歴史に関わる個別的な事象同士の関係を明確にするために、学習内容と学習の過程を構造的に示した。歴史的分野における「理解」については、平成20年改訂においても「思考や表現の過程などを踏まえて学習内容を十分に分かりながら身に付けること」と示されてきたが、今回の改訂ではこの趣旨を一層明確にするために、各中項目のイの(ア)に、「理解」に向かう学習の過程における考察や表現等を示したものである。

従前も学習内容の構造化や焦点化については示してきたところであるが、今回の改訂では、学習の過程を含めて構造的に示すことによって、大項目、中項目及び各事項のねらいに基づいた学習が展開し、アに示す「知識及び技能を身に付ける」学習と、イに示す「思考力、判断力、表現力等を身に付ける」学習を有機的に結び付けて、課題追迫的な学習の実現を図った。また、学習の構造化と学習のねらいを明確にすることによって、学習の際に扱うべき歴史に関わる諸事象の精選を図ることとしたものである。

#### ウ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実

グローバル化が進展する社会の中で、我が国の歴史の大きな流れを理解するために、世界の歴史の扱いについて、一層の充実を図った。

平成20年改訂においても、我が国の歴史に関わる事象に影響を与えた世界の動きについては一層の関連付けを図って学習するように示してきたが、今回の改訂では、高等学校地理歴史科に「歴史総合」が設置されることを受け、我が国の歴史に間接的な影響を与えた世界の歴史についても充実させた。例えば、元寇をユーラシアの変化の中で捉える学習や、ムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせる学習など、広い視野から背景を理解できるよう工夫したものである。

#### エ 主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実

民主政治の来歴や、現代につながる政治制度や人権思想の広がりについての学習の充実を図った。例えば、古代の文明の学習では民主政治の来歴を、近代の学習では政治体制の変化や人権思想の発達や広がりや、現代の学習では、男女普通選挙の確立や日本国憲法の制定などを取り扱うこととした。

#### オ 様々な伝統や文化の学習内容の充実

我が国の様々な伝統や文化について学ぶことは、これまでも歴史的分野で重視されてきたねらいの一つである。今回の改訂においても、歴史的分野の目標の(2)で、「伝統と文化の特色」などを考察すること、目標の(3)で「国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め」ることが示されている。内容のAの「(2) 身近な地域の歴史」において、具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることや、各中項目における伝統や文化の特色の理解につながる学習とともに、新たに内容のBの(2)や(3)において、「琉球の文化」や「アイヌの文化」についても触れることとし、学習内容の一層の充実を図った。

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a 時代区別のページ数、割合	歴史・目標（1）	ページ数、%
b 取り上げられている歴史上の人物の数	歴史・目標（3）	人
c 取り上げられている主な文化遺産の数	歴史・目標（3）	個
d 世界の歴史について取り上げている箇所数	歴史・目標（1） 学習指導要領改訂の要点 ウ・エ	箇所
e 身近な地域の歴史（東京に関する歴史的事象）を取り上げている箇所数	歴史・目標（2）（3） 学習指導要領改訂の要点 オ	箇所
f 発展的な内容を取り上げている箇所数	学習指導要領総則	箇所

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のb、c、e、fとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

b 歴史上の人物名（別紙2-1）

c 主な文化遺産（別紙2-2）

e 身近な地域の歴史（東京に関する歴史的事象）を取り上げている内容（別紙2-3）

f 発展的な内容の扱い

＜ 調査の結果、fについては記載が無いことを確認した。 ＞

＜その他＞

\*1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱い（別紙2-4）

\*2 国旗・国歌の扱い（別紙2-5）

\*3 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料（別紙2-6）

\*4 北朝鮮による拉致問題の扱い（別紙2-7）

\*5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（別紙2-8）

\*6 一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱い（別紙2-9）

\*7 オリンピック・パラリンピックの扱い（別紙2-10）

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

歴史的分野の目標及び中学校学習指導要領解説 社会編 第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点(2)改訂の要点〔歴史的分野〕を基に設定した調査研究の総括表で取り上げた事項の内容を、具体的に調査することにより、各社の方針を明確にする。

- ・ 歴史上の人物や文化遺産について学習する際の留意点として、身近な地域の発展に寄与した人物や、身近な地域の歴史に関わる文化遺産を取り上げるに当たっては、小学校における地域や我が国の歴史に関する学習との関連にも留意することが挙げられており、その扱いについて調査する。(b、c)
- ・ 内容のAの「(2) 身近な地域の歴史」において、具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることや、各中項目における伝統や文化の特色の理解につながる学習については、これらを取り上げることで歴史上の出来事を具体的な事物や情報を通して理解することができるとともに、それを自らが生活する日常の空間的な広がりの中で実感的に捉えることができる学習の場となることから、その扱いについて調査する。(e)
- ・ 発展的な内容については、学習指導要領第1章総則「第2 教育課程の編成 3 教育課程の編成における共通事項 (1) 内容等の取扱い イ」において、「学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。」と示されている。また、(3)「指導計画の作成等に当たっての配慮事項 イ」では、「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」と示されている。これらのことから、発展的な内容の扱いの有無、取り上げている内容の具体的な学習の内容について調査

する。(f)

- ・ 我が国の位置と領土をめぐる問題については、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。(＊1)
- ・ 国旗・国歌については、学習指導要領に基づき、国旗・国歌に対する正しい認識をもたせ、それらを尊重する態度を育てることが大切であることから、その扱いについて調査する。(＊2)
- ・ 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料については、学習指導要領の内容の取扱いに「神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせる」とあることから、生徒に興味や関心をもたせることのできる資料について調査する。(＊3)
- ・ 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針1として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童・生徒が人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。(＊4)
- ・ 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。(＊5)
- ・ 学習指導要領に基づき、環境にかかる諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱いについて調査する。(＊6)
- ・ 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。(＊7)

### ③ 調査研究の方法

- b 歴史上の人物名を抽出し、時代区分により整理する。
- c 主な文化遺産(国宝、重要文化財、世界遺産等、国家や社会の発展を象徴する文化遺産)を抽出し、時代区分により分類整理する。
- e 東京に関する歴史的事象を取り上げている内容を調査する。
- f 発展的な内容については、義務教育諸学校教科用図書検定基準第2章2(16)に基づき、発展的な学習内容以外のものと区別して、発展的な学習内容であることが明示されているものを整理する。

<その他>

- \*1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱いについて、北方領土、竹島、尖閣諸島等に関する項目及び記述の概要を調査する。
- \*2 国旗・国歌について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*3 神話や伝承について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*4 北朝鮮による拉致問題について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*6 一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*7 オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。

## (2) 構成上の工夫(調査結果は「別紙3」)

以下の観点により、箇条書きで記述する。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫
- イ ユニバーサルデザインの視点
- ウ デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」【(1)内容ア 調査研究の総括表】(中学校 社会 歴史的分野)

項目	a 時代区分別のページ数、割合					b 取り上げられている歴史上の人物の数					c 取り上げられている主な文化遺産の数					d 世界の歴史に取り上げられている箇所数	e 身近な地域の歴史(東京に関する歴史的対象)を取り上げられている箇所数					f 発展的な内容をとり上げている箇所数				
	合計	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計	古代までの日本	中世の日本		近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計						
																					44 16.5%		36 13.5%	50 18.8%	102 38.3%	34 12.8%
発行者	44 16.5%	36 13.5%	50 18.8%	102 38.3%	34 12.8%	266	70	108	129	153	43	503	49	43	35	17	2	146	57	2	0	25	35	17	79	0
東書	42 15.3%	36 13.1%	50 18.2%	108 39.3%	39 14.2%	275	68	114	160	178	44	564	50	34	25	14	0	123	57	2	0	22	36	14	74	0
教出	44 16.1%	36 13.1%	54 19.7%	108 39.4%	32 11.7%	274	61	110	137	169	47	524	46	38	31	9	1	125	59	2	1	21	31	12	67	0
帝国	48 17.8%	40 14.8%	52 19.3%	100 37.0%	30 11.1%	270	80	168	194	169	57	668	40	35	23	11	1	110	68	1	0	25	30	7	63	0
山川	50 17.5%	42 14.7%	52 18.2%	102 35.8%	39 13.7%	285	65	103	133	149	26	476	36	34	30	12	0	112	53	1	0	21	28	17	67	0
日文	50 18.1%	34 12.3%	52 18.8%	102 37.0%	38 13.8%	276	92	114	214	222	97	739	54	32	30	12	0	128	57	3	1	22	25	11	62	0
育鵬社	44 16.2%	32 11.8%	50 18.4%	110 40.4%	36 13.2%	272	55	81	145	143	40	464	22	20	15	8	2	67	55	2	0	30	35	18	85	0
学舎	46.0	36.6	51.4	104.6	35.4	274.0	70.1	114.0	158.9	169.0	50.6	562.6	42.4	33.7	27.0	11.9	0.9	115.9	58.0	1.9	0.3	23.7	31.4	13.7	71.0	0.0
平均値	46.0	36.6	51.4	104.6	35.4	274.0	70.1	114.0	158.9	169.0	50.6	562.6	42.4	33.7	27.0	11.9	0.9	115.9	58.0	1.9	0.3	23.7	31.4	13.7	71.0	0.0

a 「時代区分別のページ数、割合」については、各社の教科書の目次から各時代区分のページ数を算出した。

b 「取り上げられている歴史上の人物の数」については、時代区分別に、取り上げられている歴史上の人物の数を数えた。

c 「取り上げられている主な文化遺産の数」については、時代区分別に、国宝、重要文化財、世界遺産等、国家や社会の発展を象徴する文化遺産の数を数えた。

d 「世界の歴史について取り上げられている箇所数」については、時代区分別に、世界の歴史について記述している箇所数を数えた。

e 「身近な地域の歴史(東京に関する歴史的対象)を取り上げられている箇所数」については、時代区分別に、現在の東京都域内で起こった歴史的な出来事や東京に残る文化財について記述している箇所数を数えた。

発行者	人物名 古代まで
<p>東書</p> <p>ハムラビ王 孔子 始皇帝 アレクサンダロス大王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 光武帝 桓</p> <p>書帝 (広開土王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>	<p>ハムラビ王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 漢委奴国王</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>
<p>教出</p> <p>ハムラビ王 シヤマシユ 孔子 始皇帝 アレクサンダロス大王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 漢委奴国王</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>	<p>ハムラビ王 シヤマシユ 孔子 始皇帝 アレクサンダロス大王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 漢委奴国王</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>
<p>帝国</p> <p>ハムラビ王 シヤカ イムハシマド 孔子 始皇帝 アレクサンダロス大王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 漢委奴国王</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>	<p>ハムラビ王 シヤカ イムハシマド 孔子 始皇帝 アレクサンダロス大王 シヤカ (釈迦) ヤハフエ イムハシマド アラ一の王 卑弥呼 漢委奴国王</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>
<p>山川</p> <p>ハムラビ王 ファムラトス ハロトオス ロヤンポリオン シャーンソリン フトレインソン クレオパトラ アレクサンダロス大王 カエサル オクタウィアヌス アフロディテ 孔子</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>	<p>ハムラビ王 ファムラトス ハロトオス ロヤンポリオン シャーンソリン フトレインソン クレオパトラ アレクサンダロス大王 カエサル オクタウィアヌス アフロディテ 孔子</p> <p>書帝 (好太王) 讀 珍 濟 興 武 蘇我部天 物部古 推古天皇 蘇我馬子 天武帝</p> <p>持統天皇 小野妹子 中大兄皇子 (天智天皇) 中臣鎌足 (藤原鎌足) 蘇我入鹿 蘇我入鹿 長 阿蘇我部天皇 聖武天皇 光仁天皇 行基 大伴家持</p> <p>相武天皇 坂上田村麻呂 最澄 菅原道真 藤原元長 藤原道長 藤原親長 藤原純成 藤原成實 藤原公成 藤原基成 藤原純成 藤原道長 藤原元成 藤原元成</p> <p>紀貫之 紫式部 清少納言 伴善信 源信 オオクニニシ アサテノオ スサノギ 二武彦 神幸彦 山幸彦 イザナミ</p> <p>イサナギ オルフェウス 綿津見神 アメノウズメ アメノタチカラオ</p>









発行者	近世	人物名	近世
<p>ミケランジェロ ルター カルバン ザビエル バスコ・ダ・ガマ マゼラン 大友宗麟 アムゾンロウ 伊東マシヨ 千々石ミケル 中浦ジュリアン 原マスキータ 織田信長</p>	<p>今川義元 足利義昭 武田勝頼 明智光秀 島津氏 北条氏 武田氏 今川氏 長宗我部 毛利智 明智 浅井田 柴田朝倉 上杉</p>	<p>イザナ 有馬 細川 黒島 宗徳 浅野 池田 井伊 前田 真田 酒井 酒竹 津軽 狩野永徳 狩野山等伯 長谷川休 千利休 阿国 石田三成 徳川家光 南部(盛岡) 本多(白河) 奥平(宇都宮) 酒井(前橋) 稲葉(小田原) 徳川(甲府) 徳川(名古屋)</p>	<p>ミケランジェロ ルター カルバン バスコ・ダ・ガマ マゼラン 大友宗麟 大村氏 大友氏 有馬氏 織田有楽斎 大友義鎮(宗麟) 小西行長 有馬晴信</p>
<p>東書</p>	<p>森本一房 徳川秀忠 キリスア マリア 三井家 三井高利 徳川綱吉 新井白石 井原西鶴 徳川家宣 松屋芭蕉 近松門左衛門 坂田藤十郎</p>	<p>徳川(宇和島) 久留米 (熊本) (福岡) (府中) (広島) (岡山) (鳥取) (彦根) (福井) (金沢) (松代) (前橋) (甲州) (尾張) (津) (紀伊) (徳島) (高知)</p>	<p>紀伊須賀 蜂須平 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>市川団十郎 依屋宗達 尾形光宣 徳川光圀 曾長 徳川昭信 松平定信 ラークマン 大黒屋光太夫 間宮林蔵 細川重賢 最上徳内 近藤重蔵 伊能忠敬</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>阿国 李徳 徳川 南丹 木多 奥平 水士 阿稻 徳川 尾松 藤本</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>(小浜) (福井) (金沢) (松代) (高岡) (長岡) (金津) (村上) (庄内) (秋田) (秋前) (松前) (長政) (四郎) (シヤイン) 三井 池</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>
<p>教出</p>	<p>徳川綱吉 石白鶴 新井左衛門 坂田藤十郎 市川團十郎 林羅山 林家蕉 松屋芭蕉 尾形宗宣 徳川光圀 中江藤樹 関孝和</p>	<p>徳川(安濃津) 井伊(彦根) 徳川(和歌山) 蜂須賀(徳島) 山内(高松) 山内(高知) 松平(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 鍋島(佐賀) 宗原(府中) 黒田(福岡) 浅野(広島) 松平(松江) 池田(岡山) 池田(鳥取)</p>	<p>徳川 紀伊 蜂須 松平 山平 細川 立花 鍋島 宗原 小笠野 水野 松平 池田 森 池</p>



発行者	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	豊臣秀長 石田三成 徳川家光 徳川家康 太田道灌 佐竹重高 南部信直 松平信綱 丹羽元景 保科正親 奥平昌高 酒井忠尚 徳川家康 土井利勝 阿部重定 稲葉重定 戸田重定 藤堂高直 井伊直孝	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	徳川(甲府) 徳川(松代) 眞田(高田) 上杉(米沢) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	徳川(紀伊) 蜂須賀(徳島) 浅野(広島) 伊達(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 立花(柳井) 鍋島(佐賀) 黒田(福岡) 小笠原(小倉) 宗(府中) 山内(高知) 水野(福山) 松平(松江) 松平(高松) 池田(岡山) 神原(姫路) 本多(鳥取) 酒井(郡山) 松平(小浜) 前田(福井) 前田(金沢)	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)
育鵬社	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	豊臣秀長 石田三成 徳川家光 徳川家康 太田道灌 佐竹重高 南部信直 松平信綱 丹羽元景 保科正親 奥平昌高 酒井忠尚 徳川家康 土井利勝 阿部重定 稲葉重定 戸田重定 藤堂高直 井伊直孝	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	徳川(甲府) 徳川(松代) 眞田(高田) 上杉(米沢) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	徳川(紀伊) 蜂須賀(徳島) 浅野(広島) 伊達(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 立花(柳井) 鍋島(佐賀) 黒田(福岡) 小笠原(小倉) 宗(府中) 山内(高知) 水野(福山) 松平(松江) 松平(高松) 池田(岡山) 神原(姫路) 本多(鳥取) 酒井(郡山) 松平(小浜) 前田(福井) 前田(金沢)	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	
学び舎	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	豊臣秀長 石田三成 徳川家光 徳川家康 太田道灌 佐竹重高 南部信直 松平信綱 丹羽元景 保科正親 奥平昌高 酒井忠尚 徳川家康 土井利勝 阿部重定 稲葉重定 戸田重定 藤堂高直 井伊直孝	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川家康 マルコ・ポーロ バスコ・ダ・ガマ コロランブス マゼラン ルター ポツティエリ レケランジェロ リオンナルド・ダ・ヴェンチ カルバン フランシスコ・ザビエル	徳川(甲府) 徳川(松代) 眞田(高田) 上杉(米沢) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	徳川(紀伊) 蜂須賀(徳島) 浅野(広島) 伊達(松山) 細川(熊本) 有馬(久留米) 立花(柳井) 鍋島(佐賀) 黒田(福岡) 小笠原(小倉) 宗(府中) 山内(高知) 水野(福山) 松平(松江) 松平(高松) 池田(岡山) 神原(姫路) 本多(鳥取) 酒井(郡山) 松平(小浜) 前田(福井) 前田(金沢)	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	頼朝 勝頼 武田勝光 明智光秀 織田信長 島津義久 北条氏政 長宗我部元親 島津義久 北条氏政 伊達政宗 豊臣秀長 李舜臣 加藤清正 小西元長 李舜臣 狩野山楽 狩野元信 千利休 阿国	徳川(高田) 眞田(松代) 上杉(高田) 松平(村上) 酒井(庄内) 山田(長政) 天草(四郎) 文島(岸長) シヤクシヤイン 尚氏 雨森(芳洲) 徳川(綱吉) 孔子(白石) 新井(宗達) 俵屋(保長) 柳沢(西鶴) 近松(門左衛門) 松尾(芭蕉) 尾形(光琳)	

発行者	人物名	近代
ロツク	茂沢栄一 福江直嗣 中山尚梅 津田尚隆 近藤重徳 最上徳博 伊藤井馨 陸奥宗光 小村寿太郎 八田與一	東条英蔵 昭野天眞 島崎藤村 クエーベルラン 嘉納治五郎 金栗四三 アベ光世 星野光
東書	ハリス 井直嗣 一橋慶喜 吉松晋作 高杉孝隆 木西久隆 大坂本龍 岩倉海兵衛 勝明皇 三條重信 板垣退助 大隈重信	石霖幸 張作口雄 浜学良 津藤トシ リソン 松岡洋右 犬養毅 毛近衛文 斎藤貞夫 平千太郎 杉原千蔵 オスカー・ランドラー アンネ・フランク
教出	ハリス 上野平 ペリヤーチン 堀田直陸 吉田松陰 西久保作 高杉孝隆 大木龍馬 坂本龍馬 徳川家天 和宮博文 伊藤博文 明後藤象二郎	右 松岡東 毛沢文 近衛新平 杉原千蔵 山本権兵衛 チャアン アンネ 東条英機 昭和天子 中谷剛 丸木俊 水木しげる 手塚治虫
帝国	カルバン クロムウエル ワシントン モンテスキュー ロソク ルソニー ナポレオン マリカン ビスマルク ストウ ヴィルヘルム1世 伊藤博文 ベニーリグ 間宮林蔵 高野長英	ムツリ ヒトラ 蔣儀 薄リツト 山口親子(孝義) 毛沢東 近衛文相 斎藤隆夫 樋原千一 樋原千一郎 アンネ チヤ 東条英機 森脇瑠子







発行者	人物名		現代
東書	マツカ-サー 昭和天皇 東条元首相 蔦介石	周恩来 鳩山一郎 田中角栄 佐藤栄作 ケネディ	黒澤明 長嶋茂雄 王貞治 力大鵬 黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
教出	マツカ-サー 昭和天皇 毛沢東 吉田茂 カスロ	周恩来 田中角栄 佐藤栄作 李承晩 池田勇人 ネルソン	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
帝国	マツカ-サー 昭和天皇 加納莞書 キリノ 毛沢東	李承晩 小谷伊兵衛 佐藤栄作 池田勇人 ネルソン	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
山川	マツカ-サー 昭和天皇 オハバ 東条英機 幣原喜重郎 幣久邇宮総彦	池田勇人 佐藤栄作 田中角栄 勇人 田中角栄 佐藤栄作 田中角栄 福田正平	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
日文	周恩来 マツカ-サー	田中角栄 クワ-ベルタン 松本毅	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
育鵬社	朴正熙 ブルガーニン 島安次郎 島秀雄 島隆 マツカ-サー 昭和天皇 東条英機 ハール 毛沢東	白川英樹 野依良治 小柴昌俊 田中耕一 南部陽一 小林誠 益川敏英 下村脩 鈴木章 根岸英一	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ
学び舎	エマ-ゴンザレス マツカ-サー 昭和天皇 石田雅子 鈴木安蔵	アベベ チャヤスラフスカ マールタ-ク-キンソン ザ-ビートルズ	黒澤明 湯川秀樹 美空ひばり 長嶋茂雄 王貞治 福田赳夫 周恩来 中曾根康弘 竹下登 サッポロ

発行者	主な文化遺産 古代まで	
<p>合掌土偶 東大寺の洞窟の壁画 ラサールの三ツツミット モヘンのジッジョ・ダロの都市遺跡 西安(長安)の兵馬俑坑と兵馬俑 万里の長城 殷で造られた青銅器 甲骨文字が刻まれた牛の骨 アケロポリスとハルテノン神殿 古代ローマの水運橋 コロッセオ</p>	<p>ノートルダム大聖堂 イモラムスク ポエルサラム遺跡 エルクドレム 縄文土器 土偶 銅鐸 銅鐸 大仙古墳(仁徳陵古墳) 武人埴輪 須重器 ワカケケル大王(武)の名を刻んだ鉄剣</p>	<p>延暦寺 御式部日記 紫式部院鳳凰堂 平等院鳳凰堂 源氏物語繪巻 伴大納言繪巻 出雲大社の本殿 出雲大社の境内から発掘された心御柱 佐陀神能</p>
<p>ラスコーのピラスミット フイルのピラスミット モヘンのジッジョ・ダロの遺跡 兵馬俑坑 万里の長城 甲骨文字が刻まれた牛の骨 雲崗の石窟 アテネのバルテノン神殿 ローマのコロッセウム(闘技場) 古代ローマの水運橋 コロッセオ 岩のドームと「嘆きの壁」</p>	<p>古墳から出土した銅鏡 稲荷山古墳出土の鉄刀 江田船山古墳出土の土器 遺跡から出土した土器 石窟から出土した土器 法隆寺金堂の釈迦三尊像 法隆寺西院の樹下美人図 中国の正倉院 鑑真大師の正倉院 東大寺の大仏</p>	<p>興福寺の阿修羅像 行基像 駒形行部日記 源氏物語繪巻 土佐院如來像 阿彌陀寺起縁起 清水寺縁起 出雲大社古事記</p>
<p>ラスコーのピラスミット フイルのピラスミット モヘンのジッジョ・ダロ遺跡の沐浴場 漢字の基になった甲骨文字 万里の長城 バルテノン神殿 フツタガヤ イエスの墓といわれる場所に建つ教会 岩のドーム 火焔型土器</p>	<p>石窟 龍門の弥勒菩薩 日本美人図 法隆寺の大仏 東大寺正倉院阿修羅像 正倉院正倉阿祥坐像 興福寺吉野坐像 鑑真大師坐像 紫式部日記 御式部日記</p>	<p>源氏物語繪巻 阿彌陀寺起縁起 阿彌陀寺神像 アプンベル フルーモスル 紀伊山地の霊場と参詣道</p>
<p>ラスコーのピラスミット フイルのピラスミット モヘンのジッジョ・ダロ神殿 バルテノン神殿(コロッセウム) 甲馬俑坑 兵馬俑坑 万里の長城 蛇紐金印 火焔型土器 土偶</p>	<p>神功皇后像(肖像画) 鳥邊起縁巻 北野宮院鳳凰堂 平等院鳳凰堂阿彌陀如來像 平照寺(銀閣) 西本願寺(東寺) 清水寺 抹茶を飲むための天目茶碗 八幡製鉄所 紀伊山地の霊場と参詣道</p>	<p>宗像・沖ノ島と関連遺産群</p>

「別紙2-2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容。主な文化遺産 古代まで】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 古代まで	
洞くつ ピラミッド モヘリ遺跡 甲斐の城 万葉集 パルテノン神殿 コロッセオ(円形闘技場) 古代ローマの水道橋 エアルム モスク(イラン) 土偶	銅鐸 「漢委奴國(国)王」という文字がほられた金印 百舌鳥古墳群 鉄刀 武人の埴輪 新羅時代の代表的な仏教建築 法隆寺 彌勒菩薩(正倉院) 正倉大仏 興福寺阿修羅像 鑑真和上坐像	佐陀神能 平等院鳳凰堂(肖像画) 藤原道長(肖像画) 源氏物語絵巻 鳥獸人物鳳凰堂の阿彌陀如来像 平等寺東塔 葉師寺宮跡 熊野古道
日文	ミミツミ メソポタミアの神殿 モヘリ遺跡 万葉集 甲斐の城 パルテノン神殿 コロッセオ 銅鐸 銅矛 金印 大仙山古墳(に徳天皇陵) 相模山古墳から出土した鉄剣 江田船山古墳から出土した鉄刀	火葬 日本書紀 正倉院正倉 月出大雲大(盧那如来像) 東大寺大仏殿(坐像) 藤原道長(肖像画) 平等院鳳凰堂(肖像画) 阿彌陀如来像 最澄(肖像画) 紀伊山地の霊場と参詣道 宗像
育鵬社	ローマの水道橋 パンテオン 高句麗の好太王(広開土王)碑 ブッサー・ピエタ 浦上天主堂 法隆寺 彌勒菩薩坐像 葉師寺東金堂坐像 鑑真和上坐像(金堂) 唐招提寺	日本書紀 正倉院正倉 月出大雲大(盧那如来像) 東大寺大仏殿(坐像) 藤原道長(肖像画) 平等院鳳凰堂(肖像画) 阿彌陀如来像 最澄(肖像画) 紀伊山地の霊場と参詣道 宗像
学び舎	ラスコーの壁画 キヤサの洞窟の壁画 始皇帝の馬 万里の長城 甲斐の城 クワア水道橋 土偶 銅鐸 「漢委奴國王」の金印 武人の埴輪 大塚山古墳の鉄剣 カネ	東大寺の古仏 アール・ワット 正倉院正倉坐像 鑑真和上坐像 清水寺縁日記絵巻 紫式部物語絵巻 平等院鳳凰堂 法隆寺の彌勒菩薩像

発行者	主な文化遺産 中世	
<p>北野天光寺 瑠璃水阿彌陀寺 白書山寺 粉河寺 平治寺 中尊寺 一徳寺 阿賀寺 東大寺</p>	<p>神縁起巻 五重塔 陀羅尼巻 縁起巻 縁起巻 縁起巻 縁起巻 縁起巻 縁起巻</p>	<p>力の像 上人の巻 宮殿 天宮大社 藤原天皇 中洛外屏風 本洛外屏風 義満（肖像画） ハングル（訓民正音） 中城跡 元洛外屏風 万國津梁の鐘 志尊館跡 月次風俗図</p>
<p>東書</p>	<p>花田植 圓祭巻 縁起巻 山遺跡（肖像画） 元就の金閣 洛外屏風 現代の能 東求堂同仁斎 慕婦絵詞 龍安寺の石庭</p>	<p>民たちの訴状 粉河寺縁起巻 伴大納言金堂 中尊寺盛徳社 一徳寺盛徳社 阿賀寺盛徳社 東大寺盛徳社 粉河寺縁起巻 伴大納言金堂 中尊寺盛徳社 一徳寺盛徳社 阿賀寺盛徳社 東大寺盛徳社</p>
<p>教出</p>	<p>慈照寺の観閣 洛中洛外屏風 東求堂同仁斎 秋冬山水図 慕婦絵詞 枯山水の石庭 円覚寺舍利殿 奥州藤原氏が残した寺社と庭園</p>	<p>熊野本宮大社 後醍醐天皇 洛中洛外屏風 足利義満 首里城の正殿 紅型 万国津梁の鐘 月次風俗図 職人尺縁起巻 眞如堂縁起巻 鹿苑寺の金閣</p>
<p>帝国</p>	<p>慕婦絵詞 金閣 銀閣 東求堂同仁斎 月次風俗図 瑠璃光寺の五重塔 秋冬山水図 龍安寺の石庭 フイレンツエ 琉球王国の祇園祭</p>	<p>聖徳太子の像 後醍醐天皇 洛中洛外屏風 足利義満（肖像画） 足利義満（肖像画） 万国津梁の鐘 志尊館跡 職人尺縁起巻 眞如堂縁起巻 毛利元就（肖像画）</p>
<p>山川</p>	<p>洛外屏風 眞如堂縁起 毛利元就（肖像画） 洛中洛外屏風 金閣 銀閣 東求堂同仁斎 慧可断臂図 織田信長（肖像画）</p>	<p>日蓮上人の像 伴大納言 鳥獸戯画 石山寺縁起巻 ケンヤルンの大聖堂 後醍醐天皇 足利義満（肖像画） 北京故宮（紫禁城） 今帰仁城跡 首里城の正殿 国王のかんむり</p>

主な文化遺産 中世	
<p>発行者</p> <p>一遍上人絵伝 マヤの遺跡 パネ子ア イスンドゥア ヒンディー教の寺院 中河寺縁起絵巻 粉河寺色堂 中尊寺社 平清盛像 明義三河荘の農門の金剛力士像 阿氏寺南大門 東大寺南大門</p>	<p>重源像 法然上人絵伝 法然(肖像画) 親鸞(肖像画) 熊野本宮大社 上杉本義満(肖像画) 足利義満(肖像画) 勝運城跡 復元された首里城 ハンブル 紅型津梁の鐘 万国津梁の鐘 真如堂縁起絵巻</p>
<p>育鵬社</p> <p>平治物語絵巻 赤松威徳 無著像 金剛力士像 天橋朝と伝えられる肖像画 源頼朝と金堂 中尊寺金堂 一遍上人絵伝 東大寺南大門 金剛力士像 纂婦絵詞 法然(肖像画)</p>	<p>石山寺縁起絵巻 金閣 銀閣 秋冬山水図 東求堂同仁齋 敵島神社</p>
<p>学び舎</p> <p>粉河寺縁起絵巻 中尊寺上人絵伝 一遍草紙 東大寺南大門・金剛力士像 阿字河聖絵 一遍醍醐天皇(肖像画) 訓民正音 洛外図屏風(東京国立博物館) 真如堂縁起 洛外図屏風(上杉博物館)</p>	<p>親鸞(肖像画) 後醍醐天皇 洛外図屏風 足利義満(訓民正音) ハングルの首里城 復元された鐘で出土した宋銭 万国津梁の鐘 志賀館跡付近縁起絵巻 真如堂縁起絵巻 石見銀山(肖像画) 毛利元就(肖像画) 月次風俗図屏風 職人尽絵</p> <p>銀閣 東求堂同仁齋 首里城 石見義満(肖像画) 足利義満南大門 無着像</p>

主な文化遺産 近世	
<p>松本城天守 大山城天守 彦根城天守 松江城天守 旧関谷学校 旧弘道館 アヤ・ソフイアロ大聖堂 サン・ピエトロ大聖堂 アズハル・モスク マチユビチュ遺跡 鉄砲(火縄銃) 南蛮人渡来図屏風 南蛮人がもたらした時計</p>	<p>朝鮮通信使に関する記録 朝鮮の歌舞伎 風神図屏風 八橋時絵螺鈿硯箱 現在の人形浄瑠璃 本居宣長の肖像画 伊能忠敬の地図 一掃百態図</p>
<p>フランシスコ・ザビエル(肖像画) 織田信長(肖像画) 京地尺 姫路城(肖像画) 千利休待庵巻 妙舞伎東照宮 日光七福図巻 七難七福図ワット アレンコ 原城跡 天草四郎の陣中旗</p>	<p>朝鮮通信使に関する記録 朝鮮神図屏風 燕子花図屏風 八橋時絵螺鈿硯箱 伊能忠敬(肖像画) 忠敬の地図 測量機器 一掃百態</p>
<p>サン・ピエトロ大聖堂 アヤソフイアロ大聖堂 マチユピチュ 南蛮屏風 フランシスコ・ザビエル 石見銀山(肖像画) 織田信長(肖像画) 豊臣(羽柴)秀吉(肖像画) 検地に使われた「ものさし(検地尺)」 米を量る「ます(一升枡)」 姫路城二の丸御殿 三条城二の丸御殿 歌舞伎図巻</p>	<p>日光の社寺 富士山 萩反射炉 壁にあいた三角形の穴 久能山東照宮</p>
<p>マチユピチュ 南蛮屏風 石見銀山 フランシスコ・ザビエル 豊臣秀吉 姫路城二の丸御殿 一条庵待庵(肖像画) 二条利休(肖像画) 十歌舞伎図巻 有田焼の茶碗 彦根屏風</p>	<p>日光の社寺 富士山 萩反射炉 壁にあいた三角形の穴 久能山東照宮</p>
<p>サン・ピエトロ大聖堂 ヴェルサイユ宮殿 イエンカ帝国の遺跡 イスタタプルの街 タージマハル 南蛮屏風 フランシスコ・ザビエル 織田信長(肖像画) 榊地尺 姫路城 松林図屏風 妙舞伎待庵 千利休(肖像画)</p>	<p>朝鮮通信使に関する記録 七福図巻 雷神図屏風 燕子花図屏風 東洲齋写築が描いた歌舞伎の役者絵 一掃百態図 大日本学校 閑谷忠敬 伊能忠敬 タージマハル 白川郷</p>
<p>山川</p>	<p>日光の社寺 富士山 萩反射炉 壁にあいた三角形の穴 久能山東照宮</p>

発行者	主な文化遺産 近世
<p>イスタンプール スレインモスク フランシスコニザエル 織田信長(肖像画) 梅田に使われた「ものさし」 南蛮図屏巻 石見銀山(肖像画) 彦根城 西本願寺書院</p>	<p>妙喜庵侍庵 有田焼 東照宮 原城跡 踏絵 朝鮮通信使関係の資料 七難七福図巻 現在花図屏風 閑谷学校 弘道館 一掃百態 伊能忠敬(肖像画)</p>
<p>松林図屏風 風神雷神図屏風 八橋蒔絵螺鈿硯箱 マチユビチユ 南蛮屏風 フランシスコニザエル(肖像画) 織田信長(肖像画) 織田信尺 姫路城 西本願寺唐門 彦根城 支倉常長(肖像画) 踏絵</p>	<p>紅梅図屏風 弘道館 一掃百態 蕪山の反射炉(肖像画) 本居宣長(肖像画) 伊能忠敬(肖像画) 大日本治海輿地全図 ウエルサイユ宮殿 ペーヘンミユ宮殿 タージ・マハール アンコーン・ワット 日光の社寺</p>
<p>南蛮屏風 サンビエトロ大聖堂 ジエンネにあるイスラム教のモスク ザビエル(肖像画) ベルサイユ宮殿 古都スエーデンの王宮群 スウェーデンのアフメト・モスク 姫路城 昌徳宮 タージ・マハール 人形浄瑠璃</p>	<p>大日本治海輿地全図の一部 本居宣長(肖像画)</p>

「別紙2-2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 近代】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者		主な文化遺産 近代	
東書	大浦天主堂 旧富岡製糸場 黒き猫 麗子微笑	マダナ・カルタ ベルサイユ宮殿 人権宣言 小学校の授業風景 旧開智学校	アンネの日記 アウシュビッツ強制収容所
教出	ベルサイユ宮殿 人権宣言 明治時代の小学校の授業 三角西港 旧富岡製糸場	八幡製鉄所 湖畔 老猿 れんが造りの市政資料館 赤れんが郷土館	アウシュビッツ強制収容所 アンネの日記 原爆ドーム 旧新潟税関庁舎
帝国	人権宣言 旧開智学校 旧富岡製糸場 炭坑記録画 湖畔	老猿 ベルサイユ宮殿 富岡製糸場 ル・コルビュジエの建築作品	
山川	富岡製糸場 大浦天主堂 富岡製糸所 悲母観音 湖畔	老猿 原爆ドーム 敵島神社 平家納経 明治日本の産業革命遺産	ル・コルビュジエの建築作品
日文	ベルサイユ宮殿 人権宣言 旧富岡製糸場 旧開智学校 法隆寺夢殿の救世観音像	八幡製鉄所 山本作兵衛の炭坑記録画 湖畔 女 アウシュビッツ第二強制収容所	広島県産業奨励館(原爆ドーム) 端島炭坑(軍艦島)
育鵬社	人権宣言 八幡製鉄所 湖畔 悲母観音 アウシュビッツ強制収容所	原爆ドーム 老猿 舞伎 富岡製糸場 ル・コルビュジエの建築作品	明治日本の産業革命遺産 松下村塾
学び舎	人権宣言 旧開智学校 富岡製糸場 八幡製鉄所 アンネが残した日記	アウシュビッツ強制収容所 原爆ドーム 老猿	



「別紙2-2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 現代】(中学校 社会 歴史的分野)

主な文化遺産 現代	
発行者	軍艦島 原爆ドーム
東書	
教出	
帝国	原爆ドーム
山川	斎場御嶽
日文	
育騰社	
学び舎	なげきの壁 アルアクサー・モスク

「別紙2-3」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 e 身近な地域の歴史(東京に関する歴史的事象)を取り上げている内容】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	古代まで	中世	近代	現代	
東書	旧石器時代の人々の移動 弥生土器の発見	花火の見物客でにぎわう両国橋 江戸城 江戸幕府の開府 参勤交代 江戸の町の様子 朝鮮通信使の航路 オランダ商館長による将軍挨拶 江戸に滞在するオランダ人 江戸を訪れる朝鮮通信使 琉球使節 金座・銀座 近世の特産物 江戸の繁栄 近世の江戸 街道の整備 海運の発達 駿河町越後屋の店前 近世の交通 江戸の芝居小屋 江戸の防災 昌平坂学問所 礼差 化政文化 義園塾 名所江戸百景 大はしあたけの塔立	明治時代初期の日本橋付近の様子 ベリーの来航と台場 桜田門外の変 江戸城の明けわたし 幕末の動きと戊辰戦争 江戸の東京改称 新橋・横浜間鉄道開通 銀座の状況 小笠原諸島の領有確定 明治会堂 五日市憲法 日比谷焼き打ち事件 交通と産業の発達 東京・横浜間の電信開始 東京・京都・大阪間の郵便開始 浅草・新宿の映画常設館街 東京放送局による放送開始 帝国議会の議事堂を取り巻く民衆 第1回メーデー 浅草六区 ラジオ放送の開始	関東大震災 関東大震災後の浅草 初の男子普通選挙の投票所 浜口雄幸首相狙撃 五・一五事件 二・二六事件 節約を訴える標語 学徒出陣壮行会 集団疎開 供出された寺の鐘 空襲などによる死傷者数 東京大空襲 第18回オリンピック大会 東京大空襲の記憶を伝える	東京オリンピックの開会式 満州から引きあげてきた子どもたち 闇市の様子 極東国際軍事裁判(東京裁判) 青空教室 ダグラス・マッカーサーと昭和天皇 憲法公布の祝賀会 初の男女普通選挙 復活したメーデー アメリカ統治下の小笠原諸島 安保闘争 友好の記念として中国からおくられたパンダを喜ぶする人々 小笠原諸島返還 北海道新幹線の開通 東京オリンピック・パラリンピック 東京オリンピック・パラリンピック トイレットペーパー売り場に殺到する人々 日本に帰国する拉致問題の被害者
教出	石材の産地と交易の広がり 弥生土器の出土	江戸のまち 江戸城 江戸幕府の開府 江戸の支配 五街道の整備 参勤交代 鎖国下の江戸の窓口 江戸城に向かう朝鮮通信使 オランダ商館長の江戸訪問 江戸城に向かう朝鮮通信使 江戸に向かう琉球使節の一行 江戸の町の様子 金座・銀座 流通の発達 江戸の発達 越後屋呉服店 湯島聖堂 目黒の設置 昌平坂学問所 化政文化 江戸のにぎわい	明治時代の新橋の様子 品川の台場跡 桜田門外の変 幕末に江戸で起こった打ちこわし 江戸城の明けわたし 戊辰戦争 江戸の東京改称 江戸城に入る天皇の一行 新橋・横浜間鉄道開通 洋風化する町並み 小笠原諸島の領有宣言 五日市憲法 多摩の自由民権運動 日比谷焼き打ち事件 明治時代の主な工場や鉱山と、鉄道の広がり 東京の生活環境の悪化 東京を走るバス 開通した直後の地下鉄 劇場や映画館が並ぶ大正時代の浅草 帝国議会の議事堂を取り囲む民衆 投票所に並ぶ人々	大正・昭和初期の東京駅前の様子 都市の発達 関東大震災 関東大震災直後の東京・日比谷 銀行に押しかけた人々 狙撃された直後の浜口首相 五・一五事件 二・二六事件 二・二六事件で、東京赤坂の料亭に立てこもる反乱軍 秦安殿への「捧げ銃」 復興新平による震災復興 復興事業で建設された常盤小学校 学徒出陣壮行会 東京大空襲 空襲を受けた主な地域	銀座の移り変わり 極東国際軍事裁判(東京裁判) 昭和天皇とダグラス・マッカーサーの会見 国会議事堂の開通に連れたアメリカ軍の兵舎 戦後の闇市 皇居前広場で行われた憲法発布記念祝賀大会 中学校の学級活動 新安係条約に反対して、国会を取り巻く人々 小笠原諸島返還 東京オリンピック 東京オリンピック トイレットペーパーの売り場に殺到する人々 建設中の東京タワー 第五福竜丸展示館



「別紙2-3」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 e 身近な地域の歴史 (東京に関する歴史的事象) を取り上げている内容】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	古代まで	中世	近世	近代	現代
<p>調・庸の都への運搬日数</p>	<p>すしなどを売る江戸時代の屋台 400年前の江戸の町 徳川家康による江戸の町づくり 参勤交代 江戸城に向かう朝鮮通信使 琉球使節 朝鮮通信使の行路 江戸に向かう琉球使節の一行 江戸の商人 江戸の職人 江戸時代の交通網 江戸の発達 五街道の整備 大阪・江戸間の航路 江戸の日本橋 江戸の飲料水を支えた玉川上水 昌平坂学問所 湯島聖堂 打ちこわし 化政文化 江戸に見られるくらのくふう</p>	<p>江戸時代の江戸のようす 明治時代の東京のようす 1868年に江戸城に入る天皇 桜田門外の變 江戸城無血開城 幕末の世直しと倒幕の動き 江戸の東京改称 新橋・横浜間の鉄道開通 鉄道の発達 1874年ごろの東京銀座のれんがが街 小笠原諸島の領有宣言 豪農が建てた学校 日本帝国憲法 (五日市憲法草案) 日比谷焼き打ち事件 米騒動の広がり 国会議事堂前に集まる群集 大都市 東京 関東大震災 100年ほど前の田園調布 東京の浅草の映画街 大正時代の東京駅</p>	<p>江戸時代の江戸のようす 明治時代の東京のようす 1868年に江戸城に入る天皇 桜田門外の變 江戸城無血開城 幕末の世直しと倒幕の動き 江戸の東京改称 新橋・横浜間の鉄道開通 鉄道の発達 1874年ごろの東京銀座のれんがが街 小笠原諸島の領有宣言 豪農が建てた学校 日本帝国憲法 (五日市憲法草案) 日比谷焼き打ち事件 米騒動の広がり 国会議事堂前に集まる群集 大都市 東京 関東大震災 100年ほど前の田園調布 東京の浅草の映画街 大正時代の東京駅</p>	<p>江戸時代の江戸のようす 明治時代の東京のようす 1868年に江戸城に入る天皇 桜田門外の變 江戸城無血開城 幕末の世直しと倒幕の動き 江戸の東京改称 新橋・横浜間の鉄道開通 鉄道の発達 1874年ごろの東京銀座のれんがが街 小笠原諸島の領有宣言 豪農が建てた学校 日本帝国憲法 (五日市憲法草案) 日比谷焼き打ち事件 米騒動の広がり 国会議事堂前に集まる群集 大都市 東京 関東大震災 100年ほど前の田園調布 東京の浅草の映画街 大正時代の東京駅</p>	<p>学徒出陣 オリンピック東京大会の開会式のようす 新国立競技場 極東国際軍事裁判 (東京裁判) 東京の租界にタイムズスクエアの看板をかかげる品川彌太郎のアメリカ兵 満州からの引き上げ者 マッカーサーと昭和天皇 日本国憲法公布の祝賀会 闇市のようす バラックの前で食事の準備をするようす 靴みがきをする戦災孤児 食料メーデー 国会議事堂をとりまく改定安保反対デモ 小笠原諸島返還 オリンピック・パラリンピック東京大会 東京タワー 町火消</p>
<p>日文</p>	<p>大森貝塚 黒曜石の原産地 弥生土器の出土</p>	<p>室町時代のおもな交通路</p>	<p>新興都市・江戸の町づくり 三都の人口の比較 江戸幕府の開府 江戸城 参勤交代 朝鮮通信使 朝鮮通信使がたどった道 朝鮮通信使を歓迎しているようす 湯島聖堂 將軍の城下町 五川上水 五街道の整備 大阪・江戸間の物資輸送 江戸時代の交通 赤穂事件 江戸のエコロジー 越後屋の店内 昌平坂学問所 上知令 化政文化 鳶屋の店先</p>	<p>東京・銀座のにぎわい 桜田門外の變 江戸城無血開城 江戸の東京改称 江戸城に入る天皇の行列 東京開成学校の開校 小笠原諸島の日本領通告 大久保利通の暗殺 文明開化の錦絵 新橋・横浜間の鉄道開通 全国に広がった鉄道路線 五日市憲法 日比谷焼き打ち事件 東京駅 衆議院の門前におし寄せた民衆 関東大震災 関東大震災直後の東京・日比谷 東京・浅草六区のようす 街を歩く若い女性 銃撃された浜口首相 五・一五事件</p>	<p>二・二六事件 学徒出陣の壮行大会 東京大空襲 東京大空襲の惨状</p>
<p>育鵬社</p>	<p>大森貝塚 黒曜石の原産地 弥生土器の出土</p>	<p>室町時代のおもな交通路</p>	<p>新興都市・江戸の町づくり 三都の人口の比較 江戸幕府の開府 江戸城 参勤交代 朝鮮通信使 朝鮮通信使がたどった道 朝鮮通信使を歓迎しているようす 湯島聖堂 將軍の城下町 五川上水 五街道の整備 大阪・江戸間の物資輸送 江戸時代の交通 赤穂事件 江戸のエコロジー 越後屋の店内 昌平坂学問所 上知令 化政文化 鳶屋の店先</p>	<p>東京・銀座のにぎわい 桜田門外の變 江戸城無血開城 江戸の東京改称 江戸城に入る天皇の行列 東京開成学校の開校 小笠原諸島の日本領通告 大久保利通の暗殺 文明開化の錦絵 新橋・横浜間の鉄道開通 全国に広がった鉄道路線 五日市憲法 日比谷焼き打ち事件 東京駅 衆議院の門前におし寄せた民衆 関東大震災 関東大震災直後の東京・日比谷 東京・浅草六区のようす 街を歩く若い女性 銃撃された浜口首相 五・一五事件</p>	<p>東海道新幹線開業の日の東京駅での出発式のようす 東京駅にある新幹線開業の記念碑 マッカーサーと昭和天皇 極東国際軍事裁判 (東京裁判) 安保闘争 東京オリンピック 東京タワー 沖繩本土復帰記念式典 東京スカイツリー 北朝鮮に拉致されて帰国した人たち</p>

「別紙2-3」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 e 身近な地域の歴史 (東京に関する歴史的事象) を取り上げている内容】 (中学校 社会 歴史的分野)

<p>伊豆諸島の黒曜石 木簡に書かれた品物</p>	<p>古代まで</p>	<p>中世</p>	<p>近世</p>	<p>近代</p>	<p>現代</p>
<p>学び舎</p>	<p>家康の江戸入り 江戸幕府の開府 町づくりと土木工事 1590年ごろの江戸 江戸の古地図 江戸城 参勤交代 大名行列の江戸への道のり 海上交通路の整備 五街道の整備 町人と武士の上野での花見 江戸を行く朝鮮通信使 朝鮮通信使の漢城から江戸までのルート 江戸の山王祭に取入れられた通信使の行列 琉球王国の使節 サトウキビの江戸城での試作 町人地の造成 上水の整備 室町一丁目あたり 江戸の町方の人口 神田上水</p>	<p>桜田門外の變 江戸の打ちこわし 江戸城明けわたし 江戸の東京改称 戊辰戦争での新政府軍の進路 郷小学校から公立小学校へ 東京名所之内銀座通煉瓦道鉄道馬車往復図 新橋・横浜間の鉄道開通 演説会 府中町の演説会 五丁目憲法 山に囲まれた深沢家土蔵 五日市と東京・横浜 学校の儀式 東京で学ぶアイヌの女性たち 東京での祝勝会 「鉄道唱歌」の1番・新橋 田無尋常小学校 関東大震災 普通選挙権を求める集会和デモ行進 女性参政権を求める5万枚の請願書</p>	<p>ハンセン病患者収容施設の授業風景 東京市への人口集中 東京の都市生活を支える電気 チャップリン来日 浅草の映画街 東洋モスリン工場のストライキ 五・一五事件 二・二六事件 二・二六事件の反乱軍の兵士たち 二・二六事件の反乱軍に対するアドバルーン 消えた東京オリンピック 疎開班と残留組のお別れ会 東京大空襲 東京東部への大空襲</p>	<p>街頭演説をする山口シヅエ 食糧メモデー 極東国際軍事裁判 (東京裁判) マッカーサーと昭和天皇 1945年の銀座 憲法発布記念式典 台東区子供議会 青空教室 インテイヤラがやってきた 1950年メモデー 砂川闘争 原水爆禁止署名運動 安保反対のデモ 国会を取り巻いた人々 「夢の島」と名づけられたゴミ埋立地 東京オリンピック 東京オリンピック開会式 日本公演のために羽田空港に買いたたザ・ビートルズ</p>	

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>【本文】 幕末にロシアと結んだ日露親善条約では、択捉島以南(北方領土)を日本領、得撫島以北の千島列島をロシア領とする。(P178) 北海道の北方領土は、…ロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。(P180) 北方領土は、ソ連によって不法に占拠されました。(P252)</p> <p>【コラム】 日本人の生活の舞台・北方領土 17世紀の前半には、蝦夷地の南部を支配していた松前藩が、北方領土や樺太(サハリン)についても調査を行っており、このころ江戸幕府が作成した地図には「くなしり」(国後島)や「えとろふ」(択捉島)、「うるふ」(得撫島)などの島名が書かれています。こうした島々には、18世紀の半ばからロシア人が進出して、日本で幕府は、この地域を直接支配することを決め、1798年からは、幕府の役人の近藤重蔵と最上徳内が国後島・択捉島を調査し、択捉島には「大日本重登呂府」の標柱を立てています。1854年、幕府はロシアとの間で日露和親条約(日魯通好条約)を結び、択捉島と得撫島との間に国境を定めました。明治時代に入り、1875(明治8)年には、政府がロシアとの間で樺太・千島交換条約を結んで、樺太全島をロシアにゆずるかわりに、得撫島から北の、千島列島の18の島々も日本の領土になりました。日本人が開拓を進めた北方領土では、海産物の加工や畜産などが行われ、1945(昭和20)年の太平洋戦争の終結時には、約1万7000人の日本人が暮らしていました。(P181)</p> <p>【写真】 国後島での海産物の加工(昭和時代初期) 1854年に日露和親条約を結んで以降、歯舞群島・国後島・色丹島・択捉島の北方四島(北方領土)は一貫して日本の領土です。(P178)</p> <p>北海道の根室半島上空から見た歯舞群島(P181) 戦前の北方領土 小学校の運動会で、大玉転がしをしている様子です。(P181)</p>	<p>【コラム】 あしかばねの舞台・竹島 竹島は、日本で古くあしかばね(鬱陵島)と呼ばれており、その西にあるウルルン島(鬱陵島)が「竹島」や「磯竹島」と呼ばれていますが、江戸時代には、現在の鬱陵島と竹島の位置が的確に認識されていたとされています。江戸時代の1618年(注: 1625年という説もあります。)-には、鳥取藩の町人が、藩を通じて幕府から鬱陵島にわたる許可を得て、あしかばねやあしかばねなどを行くようになりまし。途中にある竹島は、航海の目的や停泊地になる一方で、鬱陵島と同様にあしかばねなどが行われるようになりまし。こうした中で、日本はおそらく17世紀半ばには、竹島の領有権を確立しています。竹島でのあしかばねは、明治時代の終わりにごろから本格化し、多くの漁民が漁を行うようになりました。こうして、中、豊崎島民の一人が、安定した領土のために、竹島の領土編入と10年間の賞下げを政府に願い出しました。これを受けた政府は、1905(明治38)年1月式に「竹島」を編入への編入を閣議決定して、正式に「竹島」と命名し、2月に島根県知事が告示しました。こうして政府は竹島の領有権を再確認し、あしかばねは、太平洋戦争で1941(昭和16)年に中止されるまで続けられました。(P180)</p> <p>【注】 サンフランシスコ平和条約が発効する直前に、韓国側は公海上に一方的に境界線を引き、その韓国側には日本固有の領土である竹島を取り込み、不法に占拠しました。これに対して、日本政府は抗議を続けています。(P259)</p> <p>【写真】 竹島(島根県隠岐の島町 2012年)(P180) 改正日本輿地路程全図(P180) 明治時代の竹島 1907年ごろに、島根県の写真師が撮影した写真と、その説明文です。(P180) あしかばねの様子(P180)</p>	<p>【本文】 尖閣諸島は1895年、…内閣の決定により日本領に編入しました。(P178) 沖縄県の尖閣諸島は日本が実効支配しておお領土問題は存在しませんが、中華人民共和国(中国)や台湾が領有権を主張しています。(P180)</p> <p>【コラム】 かつお節製造の舞台・尖閣諸島 尖閣諸島については、1885(明治18)年から、政府が沖縄県を通じた調査などを続けており、無人島であることや、当時の清を主として、どの国も支配していない状況をふまえて、政府は日清戦争中の1895年1月に、沖縄県に編入し、領土であることを示す標柱を建設することを閣議決定しました。こうして、正式に日本の領土になった尖閣諸島では、19世紀末から、日本人による開拓が本格化しました。多くの民間人が移住し、多いときには200人以上の住民が暮らして可を得て開拓を始めた実業家の名前を取って「古賀村」と呼ばれる集落もできていました。尖閣諸島では、漁業を中心にして、かつお節の製造や、羽毛の採取などが行われており、政府も、土地の調査や事業の許可など、尖閣諸島に対するさまざまな措置を行ってまいりました。こうした、日本の尖閣諸島に対する実効的な支配は存在しません。(P181)</p> <p>【写真】 尖閣諸島の南小島と北小島、魚釣島(P181) かつお節の製造(明治30年代)尖閣諸島の魚釣島では、近海のかつお節を使っていた。尖閣諸島に魚釣島の土地台帳(P181)</p>	<p>【本文】 東アジアの伝統的な国際関係では、国境はあいまいでした。日本は、欧米の近代的な国際関係にならって、国境を明確に定めようとしてきました。(P178) 小笠原諸島は、いくつかの国が領有権を主張していましたが、1876年に日本の領有が確定しました。(P178) 現在には、歴史的に固有の領土でありながら、周辺諸国との間で、領土をめぐる問題をかかえる地域があります。(P180) 日本の固有の領土であっても、沖縄と奄美群島、小笠原諸島は、本土から切りはなされ、アメリカ軍の直接統治の下に置かれました。(P252) 小笠原諸島は、その後アメリカの統治下におかれました。(P259) 近隣諸国との間には、領土をめぐる問題が続いています。(P268)</p> <p>【注】 国境の確定 小笠原諸島は、16世紀末に日本人が発見したといわれ、江戸幕府が日本領であると宣言していましたが、1875年に政府が改めて領有を宣言し、翌年欧米に通告しました。(P178) 小笠原諸島は、1968年に返還されました。(P261)</p> <p>【地図】 国境の確定(P178) 現在の日本の領土(P180)</p>	

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>【本文】 ソ連とは、1956年に日ソ共同宣言に調印し、北方領土問題が未解決のまま、国交を回復しました。(P.263)</p> <p>【コラム】 日本とロシアは、1855年に日魯通好条約を結んで国交を開くとともに、両国の国境を確認し、択捉島以南を日本領、ウルップ島以北をロシア領と定めました。その後、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の北方領土は、日本固有の領土として統治されました。しかし、第二次世界大戦中の1945年8月9日、当時まだ有効だった日ソ中立条約を破って日本に対して参戦したソ連は、日本がポツダム宣言を受諾した後に、北方領土に軍隊を送ってこれら島の島々を占領し、その後不法な占拠を続けました。終戦時、北方領土にはおよそ17000人の日本人が漁業などを営んで生活していましたが、これらの人々は強制的に退去させられました。1956年に日ソ共同宣言が調印されましたが、北方領土をめぐる意見が一致せず、平和条約を結ぶことはできません。日本政府は、ソ連(現在はロシア連邦)に対して領土の返還を求めて交渉を重ねていますが、返還は実現していません。日本は、この問題を解決して平和条約を締結することが必要との考えに立ち、これまで交渉した合意や、法と正義の原則に基づいて、粘り強く交渉を続けています。(P.268)</p> <p>【注】 ロシアとの条約では、千島列島の択捉島以南を日本領、ウルップ島以北を拒否しました(P.160) ソ連が調印したことからも、千島列島の帰属については平和条約で決められませんでした。歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の北方領土は、日本固有の領土であり、日本はこれまでソ連に対して返還を要求してきてきました。ソ連の解体後は、ロシア連邦との交渉を続けており、これを北方領土問題と見なしています。(P.262)</p> <p>【写真】 北海道の東端から見た北方領土 手前は、根室市の納沙布岬です。ここから見える歯舞群島のいちばん近い島までは、4kmほどです。(P.263) 色丹島での海苔づくり(1935年頃)(P.268)</p> <p>【地図】 日本の領土・領海 日本全国に位置を示すとともに、拡大図で詳細に示す。(P.269)</p>	<p>【本文】 1905年には竹島を島根県に、…閣議決定により編入しました。(P.176)</p> <p>【コラム】 竹島は、日本海に位置する女島(東島)や男島(西島)などからなる群島で、日本固有の領土です。竹島では、江戸時代の初めから、鳥取藩の町人があしかやあわびの漁獲を行っていました。1900年代にはあしかやが本格化すると、1905年、日本政府は竹島を島根県に編入することを閣議決定しました。第二次世界大戦後、サンフランシスコ平和条約の作成段階には、韓国は「日本が放棄する地域として、竹島も加えてほしい」とアメリカ國務長官に求めましたが、「この島は、かつて朝鮮によって領有権の主張がなされたとは見られない」として、韓国の主張は否定されました。しかし、韓国の主張は「李承晩ライン」を一方的に設定して、1954年から島に警備隊を常駐させて、不法な占拠を続けています。日本政府は、これに嚴重な抗議を行うとともに、国際司法裁判所での話し合いによる解決を提案しましたが、韓国はこれに応じず、実現していません。(P.268)</p> <p>【写真】 竹島でのあしかや(P.268)</p> <p>【地図】 日本の外交と領土の歩み(P.177) 日本の領土・領海(P.269)</p>	<p>【本文】 1895年には尖閣諸島を沖縄県に、…閣議決定により編入しました。(P.176)</p> <p>【コラム】 尖閣諸島は、南西諸島西端に位置する魚釣島・北小島・南小島などからなる島々の総称です。日本は、1885年から現地調査を行い、これらの島々が無人島であり、どの国の領土でもないことを確認したうえで、1895年の閣議決定により沖縄県に編入しました。その後、開拓が本格化し、尖閣諸島に移住した日本人は、漁業やかつお節の製造、羽毛の採集などに従事してアメリカ軍の占領下におかれましたが、1972年の沖縄県の返還にもなっており、1972年の閣議決定により尖閣諸島の周辺に石油や天然ガスの埋蔵の可能性があることが指摘され、1970年代から、中国や台湾が自国の領土であると主張し始めました。その後、中国船が領海に侵入するなどの事件が起こっていることから、日本はこれに抗議し、警戒や取り締まりを強めています。尖閣諸島が日本固有の領土であることは、国際的にも認められており、日本は、尖閣諸島をめぐる、解決すべき領有権の問題は存在しないとの立場をとっています。(P.269)</p> <p>【写真】 尖閣諸島(P.269)</p> <p>【地図】 日本の外交と領土の歩み(P.177) 日本の領土・領海(P.269)</p>	<p>【本文】 西洋の近代的な国際関係を受け入れ、それに基づいて近隣諸国との関係を結ぼうとした明治政府にとって、重要な課題となったのは、それまで東アジアでは必ずしも明確でなかった国境を画定することでした。(P.176)</p> <p>政府は、1876年に、小笠原諸島が日本の領土であることを宣言し、国際社会にも認められました。(P.176)</p> <p>【コラム】 隣国と向き合うために一日本の領土をめぐる課題 日本の領土をめぐる課題は、周辺国との間で現在も課題が残されています。(P.268)</p> <p>課題の解決に向けて 領土をめぐる課題は、それぞれ国の主権に関わるもので、対立につながることもありません。また、政治・経済・歴史などとも関わり、解決は容易ではありません。武力に頼ることなく、対話と法に基づいて、平和的に解決することを目指していくことが重要です。一方で、東アジアの国や地域の発展にともしない、相互の交流はますます活発になっていきます。環境問題などの課題の解決のためには、各国が国境を越えて協力し合うことが求められています。(P.269)</p> <p>【地図と年表】 日本の外交と領土の歩み(P.177) 日本の領土・領海(P.269)</p>	

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>【本文】 北方の国境については、ロシアと開国の際に、択捉島と得撫島の間に国境を確認してしまっている( P179) 1956年には、鳩山一郎内閣がソ連と日ソ共同宣言を調印し、北方領土問題は未解決のまま、戦争状態の終了を宣言し、国交を回復しました。( P264)</p> <p>【コラム】 日ソ共同宣言 ソ連は、日本国の要請にこたえかつ日本国の利益を考慮して、獨撫諸島及び色丹島を日本国に引き渡すことに同意する。( P266) 江戸幕府は、1855年の日露通好条約で、択捉島と得撫島の間に国境を定めました。その後1875年の樺太・千島交換条約でロシアから得た千島列島を、日本はサンフランシスコ平和条約で放棄しましたが、北方領土の4島はその放棄地に含まれないという立場をとっています。しかし、日ソ中立条約を破って北方領土の4島にも侵攻していたソ連は、サンフランシスコ平和条約に署名しませんでした。1956年の日ソ共同宣言で、齒舞群島と色丹島の日本への返還が合意されましたが、択捉島と国後島については意見が食い違い、その後状況は進展していません。( P266)</p> <p>【注】 日本が降伏したあとの8月18日に、ソ連軍が千島列島の北東端に位置する占守島から攻めこみました。また、8月28日から9月5日までの間に、樺太を占領していたソ連軍が北方領土を占領しました。( P259)</p> <p>【写真】 現在の択捉島 生活が豊かになり、建物も西洋風の一戸建ても増えています。択捉島出身のロシア人も増えています。( P266)</p> <p>【地図】 明治初期の日本の国境と外交 ( P179) 日本の戦後の国境 ( P265) 北方領土周辺の国境変遷 ( P266)</p>	<p>【本文】 1905年には、竹島も現在の島根県に編入されました。( P179)</p> <p>【コラム】 竹島では、江戸時代初期には鳥取藩の米子の人々が、あしかばねやあわび漁を行っていました。隠岐の島民の願い出を受けた明治政府は、1905年に竹島の島根県編入を閣議決定し、自国の領土とする意思を公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約の草案作成過程で竹島への領有権の主張を退けられた大韓民国(韓国)は、平和条約の発効直前の1952年1月に、李承晩大統領が海洋に関する権利を宣言して一方的に公海上に境界線を設定し、54年からは竹島に海洋警備隊を駐留させました。( P267)</p> <p>【写真】 『小谷伊兵衛より差出候竹嶋之絵図』1696年、江戸幕府の求めに応じて鳥取藩から提出された絵図の控えです。当時、竹島は松嶋とよばれ、現在の豊後島を竹嶋(磯竹嶋)とよんでいた( P267) 隠岐の人たちによる竹島でのあしかばねの様子 ( P267) 島根県が発行したあしかばねの許可証 ( P267)</p> <p>【地図】 明治初期の日本の国境と外交 ( P179) 日本の戦後の国境 ( P265) 竹島と尖閣諸島の位置 ( P267)</p>	<p>【本文】 1895年には尖閣諸島も沖縄県に編入しました。( P180)</p> <p>【コラム】 難島の領土画定と国際法 尖閣諸島では、事前の現地調査もたびたび行っており、清などの支配が及んでいないことを慎重に確認しています。( P180) 魚釣島などから成る尖閣諸島は、明治政府が、1885年からたびたび現地調査を行って清などの支配が及んでいないことを慎重に確認しました。サンフランシスコ平和条約では、南西諸島の一部として日本の領土と扱われました。その際にアメリカに託された施政権も、1972年には沖縄返還協定の対象に含められて日本に返されています。しかし、1960年代末に周辺の海底に石油が埋蔵されている可能性が指摘されると、1970年代から中国や台湾が領有権を主張し始めました。( P267)</p> <p>【写真】 かつお節を干す風景 魚釣島では、戦前までかつお節の工場がありました。( P267)</p> <p>【地図】 明治初期の日本の国境と外交 ( P179) 日本の戦後の国境 ( P265) 竹島と尖閣諸島の位置 ( P267)</p>	<p>【本文】 近代の国家は、国境と領土を定め、そこに住む人々を「国民」としました。このため新政府は、それまででありまいだった国境を定めることに努めました。( P179) 小笠原諸島については、翌76年に国際法に基づいて日本領であると言言し、国際的に認められました。南西の国境を定める際には、琉球が問題になりました。( P179) この条約で、日本の領土の範囲が決まりました。( P264) 日本と東アジアの国々の間には歴史認識や領土をめぐる問題もあり、関係改善に向けた努力が続けられています。( P281)</p> <p>【コラム】 日本の政府は開国以降、国際法にのっとり領土を画定してきました。戦後の1951年に49か国との署名で結ばれた、サンフランシスコ平和条約によって法的に定められ、その範囲は本州・北海道・九州・四国とその周辺の島々に限られることが確認されました。日本の領土として扱われたうえに、アメリカに施政権が託された島々も、奄美群島は1953年に、小笠原諸島は1968年に、沖縄は72年に、日本へ返還されています。しかし、近隣諸国との間で課題がある地域も存在しています。( P266) 小笠原諸島の返還 戦後の小笠原諸島はアメリカの占領下におかれ、基地が造られました。島民は、欧米系の島民を除き、島へ帰ることを許されませんでした。終戦から23年後に小笠原復帰協定が結ばれ、日本へ返還されましたが、すでに本州で結婚している人などもいたため、実際に島へ帰れた人は多くありません。( P267)</p> <p>【注】 ポツダム宣言 日本の主権が及ぶのは、本州・北海道・九州・四国と連台国が決める島に限る。( P252)</p>	



発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>山 川</p>	<p>【本文】 ロシアとの領土問題…など、近隣の国々との関係も解決すべき重要な問題となっている。(P281)</p> <p>【コラム】 幌夷ヶ島(北海道)や千島・樺太(サハリン)方面には、江戸時代に最上徳内や近藤重藏らが探検を行い、1798(寛政10)年には択捉島に「大日本東登呂府」碑を建て、江戸幕府による支配が続いていた。1854(安政元)年、幕府は日露和親条約で初めてロシアと国交を結び、択捉島以南を日本領、得無島以北の千島列島をロシア領と双方で定め、日清政府は1875(明治8)年、樺太・千島交換条約を結び、占守島までの全ての千島列島を日本領とした。つまり、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は一貫して日本の領土であり、多くの日本人が居住して世代を継承した営みが続いていた。1945(昭和20)年8月8日、ソ連が宣戦を布告した。日本がポツダム宣言を受諾して無条件降伏した8月14日以降、ソ連は北方四島に軍隊を上陸させて不法に占領し、間もなく日本人は全島から退去させられた。1951(昭和26)年のサンフランシスコ平和条約で、日本は千島列島を放棄したが、①ソ連は平和条約に調印していないため、条約上の権利を主張できないこと、②日本は千島列島を放棄したものの、北方四島は過去一度も他の領土になったことのない日本固有の領土であり、日本が放棄した千島列島にはふくまれないこと、③戦争による侵略地ではないため、サンフランシスコ平和条約が求める植民地などの放棄の一括返還を求めたことなどから、政府は択捉島以南の4群島の一括返還を求めている。1966(昭和31)年、日本は日ソ共同宣言で国交を回復した。宣言では、平和条約が結ばれた際にソ連が歯舞群島と色丹島を引きわたすとある。(P266)</p> <p>【注】 ロシアと結んだ日露和親条約では、国境について択捉島以南を日本領、得無島以北をロシア領とし(P167)条約にとまもない、樺太南部に住む樺太アイヌの一部は札幌近郊の約雁(現在の江別市)、北千島に住む千島アイヌは色丹島へ、強制的に移住させられた。(P183)</p> <p>【地図】 「明治時代初期の日本の領土」(P183) 「北方領土の変遷(P266)」 ソ連の樺太・千島への進攻(P266)</p> <p>【資料】 サンフランシスコ平和条約(P266)</p>	<p>【コラム】 江戸幕府は1635(寛永12)年、日本人の海外渡航を禁止したが、日本海に浮かぶ竹島への渡航は日本国内との認識から禁止しなかった。明治政府は1905(明治38)年、この無人島を正式に竹島と名付けて島根県に編入することを閣議決定した。第二次世界大戦後、1948年に韓国が本海上に設けて竹島を韓国領に取りこんだ。日本政府は1965(昭和40)年に日韓基本条約を結んだが、竹島の領有問題は解決しなかった。韓国による竹島の支配は今も続いている。(P267)</p> <p>【地図】 竹島周辺(P267)</p>	<p>【本文】 政府は1895(明治28)年に尖閣諸島も沖縄県に編入した。(P184) 日本の領土である尖閣諸島については、中国と台湾が1970年代以降に領有権を主張している。(P266)</p> <p>【コラム】 日本政府は現在、尖閣諸島をめぐる解決すべき領有権の問題は存在しないとしている。明治政府は尖閣諸島が清など他国の支配がおよばない無人島であることを確認したうえで、1895(明治28)年、閣議決定により日本の領土(沖縄県)に編入した。一時は魚釣島に民間のかつお節工場もつくられていた。中国が尖閣諸島の領有権を唱えたことはなかったが、1970年代以降、東シナ海に石油や天然ガスなど埋蔵資源の可能性があるようになると、領有権を主張するようになった。近年では日本の領海への侵犯行為が続いている。また、台湾も領有権を唱えている。第二次世界大戦後、サンフランシスコ平和条約でも尖閣諸島は日本の領土とされ、1952(昭和27)年以降もアメリカの管理下に置かれた。同条約で領有権を放棄した台湾や澎湖諸島に尖閣諸島はふくまれない。1972(昭和47)年に沖縄が日本に返還された際に、尖閣諸島は沖縄県石垣市となった。現在、尖閣諸島は固有地として管理され、海上保安庁などによる厳重な警備が続いている。(P267)</p> <p>【写真】 尖閣諸島(P267) 魚釣島にあったかつお節工場(P267)</p> <p>【地図】 尖閣諸島周辺(P267)</p>	<p>【本文】 小笠原諸島の領有 開国後に幕府は各国に領有を通告し、1876(明治9)年には国際的な承認を得た。(P184)</p> <p>【コラム】 日本の領土に関して、日本政府は現在、ロシアと北方領土、韓国と竹島については国際的な承認を得た。(P266)</p> <p>【地図】 明治時代初期の日本の領土(P183) 日本の領土の変遷(P266)</p>

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>【コラム】 北方領土とは、北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島のことをさします。ここは北海道と同様にアイヌ民族が先住する地域でしたが、19世紀までに江戸幕府の支配がおよんでおり、1855年に結ばれた日露和親(通好)条約で、日本の領土と確認されました。しかし、1945(昭和20)年にソ連軍が北方領土を占領して以来、ソ連・ロシアによる不法な占拠が続き、ロシアの国民がくらっています。日本政府は、北方領土はサンフランシスコ平和条約で放棄した千島列島に含まれない日本固有の領土であると主張し、その帰属の問題を解決して、ロシアとの平和条約を締結するという方針に基づいて、ロシア政府との交渉を続けていきます。(P292)</p> <p>【注】 歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる北方領土問題については解決できず、日ソ間の平和条約締結後に歯舞群島、色丹島を引きわたすことが明記されました。(P273)</p> <p>【地図】 明治初期の外交と国境の画定(P192) 日本の領土(P292) 北方領土付近の国境の変化(P293)</p> <p>【資料】 日露和親(通好)条約(P292) 日ソ共同宣言(P292)</p> <p>【写真】 戦前の色丹小学校の運動会のようす 1945年8月、北方4島には、漁業を中心1万7000人をこえる日本人が生活していました。島を追われた元島民の高齢化が進み、すでにごくなくなった元島民は1万人をこえています。(P293)</p>	<p>【本文】 1905年に竹島を島根県に編入することを閣議決定し、日本領としました。(P193)</p> <p>【コラム】 竹島は、日本海の島根県隠岐島の北西に位置し、東島・西島などからなる総面積0.2km<sup>2</sup>ほどの群島です。1905(昭和38)年に日本政府は、漁師が「りゃんこ島」とよぶ島について、他国が支配した形跡がないため、竹島と命名して島根県に編入するという閣議決定を行い、竹島を日本の領土としました。1951年のサンフランシスコ平和条約で日本が放棄した地域に竹島は含まれていません。しかしながら、韓国は竹島に韓国の主権がおよぶと宣言し、1954年以来沿岸警備隊を竹島に駐留させ、施設を構築してここを不法に占拠し続けています。日本政府は、竹島が一度も他国の領土にはなったことがない日本固有の領土であると主張し、この問題を、国際法にのっとり、平和的に解決する努力を続けていきます。(P292)</p> <p>【写真】 竹島でアシカ漁をする漁師(P293)</p> <p>【地図】 明治初期の外交と国境の画定(P192) 日本の領土(P292)</p>	<p>【本文】 1895年に尖閣諸島を沖縄県に…編入することを閣議決定し、日本領としました。(P193)</p> <p>【コラム】 尖閣諸島は、沖縄県石垣島の北に位置し、魚釣島、久場島、大正島などの5島からなり、総面積は5.53km<sup>2</sup>です。いずれも無人島ですが、久場島および大正島は日米地位協定に基づき、射爆撃場としてアメリカ軍に提供されています。1895年、日本政府は、ここを清国が支配していないことを確認したうえで、尖閣諸島を沖縄県に編入し、日本の領土としました。1951年のサンフランシスコ平和条約において、尖閣諸島は日本が放棄した地域に含まれておらず、沖縄県の一部としてアメリカの施政下に おかれましたが、1972年に日本に返還されました。ところが、石油資源埋蔵の可能性が指摘されて以来、中国政府や台湾当局が尖閣諸島の領有権を主張しましたが、尖閣諸島は、外国の領土に なったことが一度もない日本固有の領土であることは明らかです。(P293)</p> <p>【写真】 魚釣島のカツオ節を干すようす(P293)</p> <p>【地図】 明治初期の外交と国境の画定(P192) 日本の領土(P292)</p>	<p>【本文】 1876年、政府は国際的なきまりにしたがって、小笠原諸島を日本の領土とすることを各国に通告しました。(P192)</p> <p>【地図】 明治初期の外交と国境の画定(P192) 日本の領土(P292)</p>	

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)	
<p>育鵬社</p>	<p>【本文】 1854(安政元)年の日露和親条約(日露通好条約)で、択捉島から南は日本領、得無島からの北の千島列島はロシア領と決めています(P182) ソ連軍は終戦後に千島列島に侵攻し、北方領土を不法占拠しました。(P247) ソ連とは領土問題が未解決のために平和条約を結ばず(P265) わが国固有の領土である北方領土(北海道)と竹島(島根県)は、それぞれロシアと韓国に不法占拠されたままです。(P280)</p> <p>【コラム】 北海道の北東にある歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土とよび、一度も外国の領土とになったことがないわが国固有の領土です。そのさらに北の得無島から先が千島列島です。暮末の1854(安政元)年、わが国はロシアと日露和親条約(日露通好条約)を結び、択捉島から南をわが国の領土、得無島から北をロシアの領土と確認しました。第二次世界大戦末期の1945(昭和20)年、日ソ中立条約を破ってわが国に宣戦布告したソ連は南樺太に侵攻し、北方領土が終わった後に千島列島の北の端から上陸を始め、北方領土も占領しました。北方領土には当時、約1万7000人の日本人が住んでいましたが、自ら脱出したり、追い出されたりしました。1951(昭和26)年のサンフランシスコ平和条約で、わが国は千島列島と南樺太を放棄しましたが、放棄した千島列島に北方領土が含まれないことは歴史的にも国際的な取り決めからも明らかです。1956(昭和31)年の日ソ共同宣言で、両国が平和条約を結んだ後にソ連が歯舞群島と色丹島をわが国に引き渡すとされましたが、ソ連がロシアになった後も北方領土の不法占拠が続いているため、平和条約は結ばれていません。わが国は北方領土のすべての島を返すよう求めています。(P266)</p> <p>【注】 ソ連軍は終戦後に択捉島以南に侵攻し、ソ連がロシアになった今日にいたるまで不法占拠している(北方領土問題)。(P247)</p> <p>【地図】 樺太・千島をめぐる国境の画定(P182) 近隣諸国との国境画定(P183)</p> <p>【資料】 北方領土に関する年表(P266)</p>	<p>【本文】 1905(明治38)年に日本海の竹島を島根県に…組み入れました。(P183) わが国固有の領土である北方領土(北海道)と竹島(島根県)は、それぞれロシアと韓国に不法占拠されたままです。(P280)</p> <p>【コラム】 島根県の竹島は、隠岐諸島の北西およそ158kmにある2つの小さな島と数十の岩からなる、わが国固有の領土です。江戸時代の初めの1618(元和4)年、鳥取藩(鳥取県)の商人が幕府の許可を得て、鬱陵島(今は韓国の領土)でアワビの採りやアジカを捕まえてたりしました。1661(寛文元)年には竹島でも幕府の許可を得て、漁業や狩猟が始まりました。1905(明治38)年、わが国は、これまでもこの島の領土にもなっていない竹島を正式に領土にし、島根県に組み入れました。戦後のサンフランシスコ平和条約でわが国は鬱陵島を放棄しましたが、竹島は放棄していません。ところが韓国は1952(昭和27)年に日本海に「李承晩ライン」を一方的に設けて竹島をその内側に取りこみ、その後警備隊を駐留させました。1965(昭和40)年の日韓外交正常化の際に李承晩ラインはなくなり、またたが、韓国による竹島の不法占拠は続いています。わが国は竹島を返すよう韓国に求めています。(P267)</p> <p>【写真】 1696(元禄9)年、江戸幕府の求めに応じて鳥取藩から提出された絵図。当時は竹島を松嶋、鬱陵島を竹嶋(鬱竹嶋)とよんでいた。(P267)</p> <p>【地図】 近隣諸国との国境画定(P183) 竹島周辺地図(P267)</p>	<p>【本文】 1958(明治28)年に東シナ海の尖閣諸島を沖縄県に…組み入れました。(P183) わが国が統治している尖閣諸島(沖縄県)の周辺海域に中国の監視船が侵入し、領土がおびやかされる(P280)</p> <p>【コラム】 沖縄県の尖閣諸島は石垣島から約170km離れた東シナ海の、5つの島と3つの岩からなる、わが国固有の領土です。福岡県出身の美家が1884(明治17)年に人を派遣して探検を始め、日本政府も清の支配がおよんでいないことを慎重に確認したうえで、1895(明治28)年に正式に領土にし、沖縄県に組み入れました。それ以降、力づくで尖閣諸島に侵入し、領土を主張する動きが続き、最も多いときで240人以上が住んでいました。サンフランシスコ平和条約でわが国が放棄した「台湾及び澎湖諸島」には当然含まれず、沖縄の一部としてアメリカの統治の下に置かれ、1972(昭和47)年の沖縄返還にもなっており、わが国が実効支配(実際に統治)してきて、政府は解決すべき領有権の問題は存在しないとの立場です。しかし1970年代に東シナ海に石油などの資源がある可能性があること、中国や台湾が突然、領有権を主張し始め、最近も中国の監視船がわが国の領海に侵入をくり返しています。(P267)</p> <p>【写真】 1958年に中国の地図出版社が出版した『世界地図集』。尖閣諸島を尖閣群島と表記し、沖縄の一部として取りあつかっている。(P267)</p> <p>【地図】 近隣諸国との国境画定(P183) 尖閣諸島周辺地図(P267)</p>	<p>【本文】 1876(明治9)年に、小笠原諸島が日本領であることを各国に通告し、国際的に承認されました。(P183)</p> <p>【地図】 近隣諸国との国境画定(P183)</p>	<p>【注】 日本政府は、1895年1月、尖閣諸島を日本の領土(沖縄県)として編入することを、閣議で決定した。(P185)</p> <p>【地図】 日本の領土画定と外交(P177)</p>
<p>学 び 舎</p>	<p>【本文】 1956年には、日ソ共同宣言によって、北方領土問題は未解決のままソ連と国交を回復(P257)</p> <p>【注】 北方領土問題 日本政府は、北方四島は日本固有の領土であり、その帰属の問題を解決してロシアとの平和条約を結ぶとの基本方針にもとづいて、交渉を行っている。(P257)</p>				

発行者	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)	
東 書	<p>「アメリカの独立革命」</p> <p>・【注】星条旗 最初のアメリカの国旗は、星も紅白のしまも独立直後の13の州を表していました。(P151)</p>	<p>「国旗や国歌の由来」</p> <p>・【コラム】国旗や国歌は、国家の理念や歴史などを表すシンボルとして、国民に共有されるようになりました。ここでは、イギリスとフランスの国旗にどのような由来が込められているのを見てください。</p> <p>フランスの国旗 もとはパリ市の色である青と赤に、王家の旗色である白を加えたものでした。そこに共和国の標語である自由・平等・友愛の意味が込められました。イギリスの国旗「ユニオン・ジャック」 イギリス国旗は、イングランド、スコットランド、かつてのアイルランドの旗を組み合わせたもので、国の成り立ちが表されています。(P158)</p> <p>「日本の国民意識の変化」</p> <p>・【コラム】日本の日章旗(日の丸)は、幕府が、外国船との区別をはっきりさせるために、日本船の船印として決めたもので、やがて国旗として扱われるようになりました。(P159)</p>
帝 国	<p>「アメリカの独立戦争」</p> <p>・【図】星条旗 独立当時の国旗の星の数は、州数の13でした。後、州数の増加に伴い、星の数も増えました。(P149)</p> <p>「国旗と国歌」</p> <p>・【コラム】「日の丸」は、日本の船と外国船を区別するために幕末から頻繁に用いられるようになりました。一方、「君が代」は、明治時代の初め、イギリス軍楽隊長に儀礼用の国歌があるか質問されたことをきっかけに、『古今和歌集』にある歌を元にした歌詞と、軍楽隊長が付け曲(後に変更)で作られました。「日の丸」と「君が代」は、外国との国際関係において求められたものでした。(P207)</p> <p>「シベリア出兵とソ連の成立」</p> <p>・【注】ソ連の国旗 ハンマーは労働者、鎌は農民を表しています。(P213)</p>	<p>「アメリカ独立」</p> <p>・【図】星条旗 独立当初、アメリカが13州だったときの星の数としまの数とはどちらも13である。州の数が増えるにともない、国旗の星の数も増え、現在は50である。(P157)</p> <p>「国家とは何か」</p> <p>・【コラム】 国家としてのイギリス 国旗の変遷の図(P175)</p> <p>・【写真】フランス国歌「ラ＝マルセイーズ」 フランスの国歌である「ラ＝マルセイーズ」は革命のさなかにつくられた。右手を挙げて歌っている様子がえがかかれているのは、歌の作者である。フランスの国旗(三色旗)も同じように、革命のさなかにつくり出された。(P175)</p>
日 文	<p>「アメリカの独立」</p> <p>・【図】独立後に制定されたアメリカの国旗 星の数はアメリカの州の数を、赤と白のストライプは独立したときの13州の植民地をあらわしています。(P166)</p>	
育 鵬 社		
学 び 舎		

「別紙2-6」 【 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料 】 ( 中学校 社会 歴史的分野 )

「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)

発行者	<p>「歴史書と万葉集」                  ・【本文】神話や伝承、記録などを基に歴史書の「古事記」や「日本書紀」が作られました。また、全国に命じて、自然・産物・伝承などを記した「風土記」が国ごとに作られました。(P45)                  「現代に生きる神話」</p>
東 書	<p>・【コラム】現代に生きる神話として、古事記や日本書紀の神話や、それを取り入れた神楽について紹介している。具体的に、「『記紀神話』の成立」、「『記紀神話』の展開」、「日本の神話と世界の神話」について触れるとともに、「島根県と神話」において「出雲神話」を、「宮崎県と神話」において「岩戸がくれ」の神話を取り上げている。(P54~55)                  ・【写真】出雲大社本殿、出雲大社の境内から発掘された心御柱、伊勢神宮の内宮(皇大神宮)、「失われたつり針」型の物語の分布、佐陀神能、宮崎県の神楽(P54~55)</p>
教 出	<p>「歴史書と万葉集」                  ・【本文】国際的な交流が盛んになると、天皇が日本を治める由来を説明する歴史書として、神話や国の成り立ちを記した『古事記』・『日本書紀』がまとめられました。また、地方の国ごとに、地理や産物、伝承などを記した『風土記』もまとめられました。(P47)                  「神話にみる古代の人々の信仰」                  ・【コラム】「日本の神話」において、神話の概念、当時の人々の信仰やものの見方について、「古事記に記された黄泉の国の物語」、「神話にみる古代の人々の信仰」とももの原方」において、具体的な神話の内容と、神話から読み取れることを説明している。(P54~55)                  ・【写真】古事記、出雲大社、王塚古墳の壁画、神楽の様子(P54~55)</p>
帝 国	<p>「文学の普及と歴史書」                  ・【本文】天皇が日本を治めることの正当性を明らかにしようとする動きも起こり、天皇家の由来を説明するための歴史書として『古事記』や『日本書紀』が作られ、数々の神話がそこへ記されました。また、天皇が支配するすべての土地の地理的な情報を集めるため、産物や地名の由来、伝承などを国ごとにまとめた『風土記』も作られました。(P47)                  ・【資料】国生みの神話、天孫降臨の神話、ヤマタノオロチの神話(P47)                  「『古事記』と『日本書紀』が伝える神話」                  ・【コラム】日本の神話は文字が伝わる以前から語り継がれ、『古事記』や『日本書紀』では天皇家の由来や国の成立などが説明されていること、また、日本の神話の内容には他の地域の神話と似ているものもあることなどについて記述している。(P47)                  ・【写真】石見神楽、『日本書紀』(P47)</p>
山 川	<p>「歴史書の編さん」                  ・【本文】律令国家が確立すると、天皇の由来や天皇が国家をおさめる正当性を示すために、歴史書の編さんが行われた。天武天皇が命じた歴史書の編さん事業を引きつぎ、奈良時代には『古事記』と『日本書紀』が完成した。『古事記』は、神話の時代から推古天皇の時代までの、天皇の起源を説明する物語をまとめたものである。『日本書紀』は、中国の歴史書にならって漢文で書かれた最初の歴史書で、神話の時代から持統天皇の時代までの歴史がまとめられた。このほか、諸国には、国内の産物や地名の由来、古くからの伝承などを報告することが命じられ、これらを記した『風土記』がつけられた。(P42~43)                  「日本の神話」                  ・【コラム】『古事記』、『日本書紀』、『風土記』に記載されている神話の特徴や、海外の神話との関係性について記述している。(P42)</p>

「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)

発行者	<p>「万葉集と歴史書」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】律令国家のしくみが整うにつれて、国家のおこりや天皇・貴族の由来などを説明するために、『古事記』や『日本書紀』などの歴史書がつくられました。このほか、全国の国ごとに、自然・地理・産物や伝説などを集めた『風土記』がまとめられました。(P50)</li> <li>・【コラム】「日本の神話」</li> <li>・【コラム】「神話とは何か」において、当時の人々の行動のよりどころであったことを、「『古事記』『日本書紀』の神話」、「さまざまな神話」において、神話の具体的な内容を紹介している。(P51)</li> <li>【写真】 高千穂神社の夜神楽、佐太神社の佐陀神能(P51)</li> </ul>
育鵬社	<p>「日本人の宗教観」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】「わが国固有の宗教・神道の特色」について説明し、その中で日本人の宗教観として『古事記』では「八百万の神」と表していること、また、「外来文化を取り入れてゆく寛容さ」において、日本人の宗教観の象徴について紹介している。(P44)</li> <li>【白鳳文化】</li> <li>・【本文】朝廷の儀式が充実し、天照大神をまつる伊勢神宮が整えられ、荘厳なつくりの木造神宮が建てられました。伊勢神宮では、20年ごとに神殿などを建て替える儀式(式年遷宮)が行われ、今日まで続いています。(P50～P51)</li> <li>「神話と歴史書の完成」</li> <li>・【本文】律令国家としての基礎ができあがるにつれ、わが国の歴史が書物としてまとめられるようになりました。神々の物語や代々の天皇の業績を記した『古事記』や、国の正史として代々の天皇やその業績を記した『日本書紀』がそれにあたります。また、朝廷の命令によって、各地の地理や産物、伝説などを記した『風土記』もつくられました。(P54)</li> <li>「神話に見るわが国誕生の物語」</li> <li>・【コラム】「日本の神々の物語」、「三種の神器と神武天皇」、「伝説の英雄が活躍する神話」と題して記紀の内容などを紹介。「調べてみよう」として「オオクニヌシノミコトの国ゆずり」、「海幸彦と山幸彦」を紹介している。(P56～P57)</li> <li>・【写真】「天岩屋戸」の絵、神代神楽、伊勢神宮、出雲大社、「ヤタガラス」(P56～P57)</li> </ul>
学ひ社	<p>「歴史と神話の本をまとめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】朝廷は8世紀前半に、中国の正史にならった歴史書の『日本書紀』を、神話の記録として『古事記』を完成させました。これらは、古くからの伝承もふくんでいます。天武天皇が、国の統一をすすめる目的で纏さんを命じていたものです。ここには、太陽の女神とされる天照大神が、天から地上に神々をつかわし、その子孫が国を制圧して、最初の天皇になったという神話が書かれています。東アジアの国々に対しても、天皇がこの国を治める正当性をしめそうとしたものです。また、国ごとに言い伝えられたことをしるした『風土記』もまとめられ、出雲国(島根県)や常陸国(茨城県)などのものが残っています。(P45)</li> <li>「『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」</li> <li>・【コラム】母神が富士山と筑波山を訪れた際の話を紹介。「この時代の人々は…すがた形が美しい山々には、神々が宿っていると考えていた。」と記述している。(P46)</li> <li>・【写真】筑波山(P45)</li> </ul>

発行者	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)
東書	<p>「冷戦後の日本外交」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 人権や主権を無視して多数の日本人を拉致したことが明らかになった北朝鮮との関係は、難しい問題です。(P268)</li> <li>・ 【写真】 日本に帰国する拉致問題の被害者 被害者のうち5人が2002年に、その家族が2004年に北朝鮮から帰国しましたが、依然として問題は解決されおらず、国交正常化の動きも進んでいません。(P268)</li> </ul>
教出	<p>「アジアの成長と課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 多数の日本人を拉致した問題も解決されていません。(P279)</li> <li>・ 【写真】 北朝鮮から帰国した拉致被害者 2002年の日朝首脳会談で、北朝鮮は日本人拉致の事実を認めて謝罪し、まもなく被害者のうち5名の帰国が実現しました。しかし、いまだに行方のわからない被害者もいるなど、問題は解決されておらず、日本と北朝鮮の国交正常化の動きも進んでいません。(P279)</li> </ul>
帝国	<p>「激変する東アジア」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 北朝鮮による日本人の拉致問題も未解決のままです。(P281)</li> <li>・ 【写真】 拉致被害者の帰国 北朝鮮によって日本から拉致された被害者のうち5名が、2002年、24年ぶりに帰国しました。そのほかの被害者のさらなる情報開示・帰国が求められています。(P281)</li> </ul>
山川	<p>「現在の日本の課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 北朝鮮によるミサイル・核実験、日本人拉致問題…など、近隣の国々との関係も解決すべき重要な問題となっている。(P281)</li> <li>・ 【用語解説】 日本人拉致問題 1970年代から80年代にかけて、北朝鮮によって日本人がむりやり連れ去られた。2002(平成14)年に北朝鮮はそのことを認め、五人の被害者が帰国した。しかし、そのほかの多くの被害者の行方ははっきりしていない。(P281)</li> </ul>
日本文	<p>「韓国と中国との国交正常化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【注】 会談のなかで、北朝鮮側が日本人を拉致していたことを認めました。(P277)</li> <li>・ 【写真】 北朝鮮から帰国した拉致被害者 消息が明らかでない拉致被害者が多いほか、帰国を待ちのぞむ家族の高齢化が進むなど、一刻も早い解決が求められています。(P277)</li> </ul> <p>「世界のなかの日本の課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 北朝鮮による拉致問題の解決や朝鮮半島の非核化に向けて、関係各国と協調しながら努力を続けています。(P290)</li> </ul>
育鵬社	<p>「世界のための日本の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【本文】 北朝鮮の工作員に多くの日本人が連れ去られた事件(拉致事件)も解決されていません。(P281)</li> <li>・ 【写真】 北朝鮮に拉致された人たち 2002(平成14)年9月、訪朝した小泉純一郎首相に対し、北朝鮮は日本人を拉致した事実を認めた。その後、拉致被害者の一部は帰国したものの、今なお拉致された多数の日本人の消息が不明であり、問題は解決していない。(P281)</li> </ul>
学び舎	

「別紙2-8」【 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】（中学校 社会 歴史的分野）

<p>発行者</p> <p>東 書</p>	<p>防災や自然災害時における関係機関 (国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い</p>	<p>東日本大震災の扱い</p> <p>【本文】 2011年の東日本大震災は、福島第一原子力発電所の事故を引き起こしました。(P271)</p> <p>【コラム】 2011年3月11日の東日本大震災では、岩手県・宮城県・福島県・茨城県などの広い範囲で大きな被害が出ました。(P274)</p> <p>【写真】 東日本大震災 宮城県沖でマグニチュード9.0の大地震が発生し、津波などで死者・行方不明者は1万8000人以上に上りました。(P271)</p>	<p>その他の自然災害の扱い</p> <p>【本文】 18世紀後半に起こった天明のききんは、浅間山の大噴火が発生したことも影響し、全国に広がりました。(P132) 1995年に阪神・淡路大震災が発生し、深刻な被害をもたらしました。(P270)</p> <p>【コラム】 歴史にアクセス「関東大震災」 1923年9月1日、東京・横浜(神奈川県)を中心にマグニチュード7.9の大地震がおそい、これらの地域は壊滅状態になりました。被害は、全壊約11万戸、全焼約21万戸、死者・行方不明者は約10万5000人に達しました。震災は都市改造のきっかけにもなり、復興の中で、東京や横浜は近代的な都市として生まれ変わりました。(P221) 震災の記憶を語りつく 「稲むらの火」 1854(安政元)年11月4日(新暦では12月23日)に起こった安政東海地震は、駿河湾から遠州灘沖を震源とする海底地震で、マグニチュードは8.4、東海地方を中心に甚大な津波被害をあたえました。安政東海地震から32時間後には、紀伊半島から四国沖を震源とする安政南海地震も発生しました。(P274) 「此処より下に家を建てるな」 岩手県の三陸地方は、1896(明治29)年と1933(昭和8)年の三陸沖地震による大津波、そして2011年の東日本大震災による大津波など、津波の被害を何度も体験した地域です。(P274)</p> <p>【写真】 阪神・淡路大震災 マグニチュード7.3の大地震が兵庫県南部で発生し、6400人以上が亡くなりました。(P270)</p> <p>【年表】 日本の震災の歴史(P274)</p>
-----------------------	---	--	---



発行者	防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
<p>教 出</p>	<p>【コラム】 関東大震災と後藤新平 帝都の復興計画にいち早く取り組んだのが後藤新平です。後藤は、東京市長を務めていたときに、東京を細部にわたり調査し、「8億円の東京大改造計画」を発表しました。大風呂敷ともいわれたこの案が、その後の「東京復興」の基盤となり、震災復興計画は早期立案・実行されました。震災翌日、山本権兵衛内閣の立憲大臣を引き受けた後藤は、東京を元に戻す「復旧」ではなく、新たにによりよい都市づくりをする、東京の「復興」をしなければならぬと考えます。同年9月29日、帝都復興院総裁を兼任し、復興のための基本方針として、①遷都はしない、②復興費は30億円、③欧米最新式の都市計画を採用する、④新都市計画実施のために地主に断固たる態度をとる、という4原則を策定し、早期に発表することで人々に希望を与えました。こうした方針をもとに、焼けた土地を買い上げ、広く大きな道路や公園をつくることで防災・防火に優れた都市づくりを目指します。その後、歳入が減少するなかで復興院の予算は大幅に削減され、山本内閣の総辞職を受けて、後藤は復興計画の途中で内閣を去ることとなりました。 現在につながる復興事業 縮小されたとはいえ、後藤の立てた計画に基づく復興事業は、各要所に配置された技術者たちによって実行されます。都市における区画整理の実現、舗装された広い街路と緑化、優れたデザインの高層橋や運河の整備が進められました。また、近代的な様式を取り入れた鉄筋コンクリート造りのアパートや小学校が建設され、小学校の隣接地には、災害時の避難場所となる小公園が設置されました。これらの復興事業による都市機能の整備は、現在の東京のまちの原型となりました。こうした関東大震災後の復興事業は、その後、阪神・淡路大震災後の復興事業でも参考にされるなど、災害復興の都市計画のモデルとなりました。(P238)</p> <p>【写真】 被災地で救援活動を行う自衛隊員や他県から駆け付けた警察職員(P281) 復興事業で建設された常盤小学校(P238)</p>	<p>【本文】 2011年3月、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生し、地震と津波により、死者・行方不明者が約1万9000人という戦後最大の被害をもたらしました。(P281)</p> <p>【写真】 東日本大震災の被災地で進められる工事 津波によるがれきが撤去され、防潮堤の建設や、土地のかさ上げ造成工事が進められています。(P280)</p> <p>女川いのちの石碑の序幕式 東日本大震災で大きな被害を受けた女川町では、2011年に中学校に入学した生徒たちが、震災の記録を残す活動の一つとして、石碑を建てる計画を進めました。この思いに共感した人たちの協力によって、町内の各地で石碑の設置が進められています。(P291)</p>	<p>【本文】 鎌倉時代には自然災害などによる飢饉も起こりました(P69) 浅間山の噴火や天明の飢饉が起こって、百姓一揆や打ちこわしが増し、(P134) 1995年1月、兵庫県南部を中心に発生した大地震は、死者6400人をこえる大きな被害をもたらしました(阪神・淡路大震災)。(P280) 熊本・大分や北海道など各地で大きな地震が起こり、西日本を中心とした集中豪雨も発生するなど、自然災害が繰り返され、地域の復興と、今後の災害対策が求められています。(P281)</p> <p>【コラム】 歴史の窓 関東大震災 1923年9月1日、関東地方を大地震が襲い、東京・横浜をはじめ、関東一円は地震と火災による大きな被害を受けました。被災した家屋は約37万戸、死者・行方不明者は10万人以上に達しました。(P225) 歴史を探ろう 後藤新平と杉浦千畝 1923(大正12)年に起こった関東大震災により、当時の東京市では、市の面積の約44%が焼失しました。1923年9月1日午前11時58分、マグニチュード7.9の大地震が関東地方を襲いました。地震と火災により東京・神奈川をはじめとする関東一円は大きな被害を受けました。被災した家屋は約37万戸、焼け出された市民は約340万人とされ、そのうち死者・行方不明者は10万人以上に達しました。(P238) 災害の歴史を学ぶ・伝える 1854(安政元)年12月23日、駿河湾から遠州灘沖を震源とする安政東海地震が起こり、関東から近畿地方に及ぶ地域に被害を出し、特に東海地方では津波で大きな被害が出ました。さらに、この地震から32時間後には、紀伊半島から四国沖を震源とする安政南海地震が起こり、この地震でも津波による被害を出しました。(P290) 岩手県の三陸地方では、1896(明治29)年と1933(昭和8)年に、三陸沖地震とそれによる津波の被害を受けました。(P290) 1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災などの地震による災害のほか、集中豪雨による水害など、自然災害が繰り返起こっています。(P291)</p> <p>【写真】 地震を報じる江戸時代の瓦版(巻頭2) 浅間山の噴火の様子 1783年の噴火では、多くの犠牲者を出しました。(P134) 関東大震災直後の東京・日比谷(P225) 安政南海地震を伝える石碑に墓を入れる人たち(P290) 三陸沖地震を伝える石碑(P290)</p> <p>【年表】 鎌倉時代の新しい仏教と社会の様子(P71) 記録に残る主な震災(P290)</p>

「別紙2-8」【防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
<p>帝国</p>	<p>【コラム】                      防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い                      大都市を襲った関東大震災 大震災後に後藤新平らを中心に復興計画が立てられ、道路を広くし、避難用の公園を設けるなど、計画的に街づくりが進められていきました。(P227)                      【写真】                      後藤新平 岩手県出身の官僚で、南満洲鉄道会社総裁を務めました。満洲経営の経験を生かし、震災後の復興事業に取り組みました。(P227)                      大通りの建設(P227)</p>	<p>【コラム】                      2011年3月11日、東北地方の太平洋沖を震源とする、日本の観測史上最大の地震が起きました。地震のあと、東北地方を中心に津波が襲い、死者・行方不明者は合わせて1万8千人以上という大きな被害が出ました。多くの人が家を失い、街全体に大きな被害を受けた地域もありました。(P283)                      【写真】                      東日本大震災の記憶を伝えるための石碑 震災の時に小学6年生だった子どもたちが中心となり、震災の記憶を千年後に伝えるために「女川いのちの石碑」を建てました。(P283)</p>	<p>【本文】                      鎌倉時代になると、地球規模の寒冷期となり、日本でも飢きんや災害がたびたび起こりました。(P82)                      幕府の財政は、…富士山の噴火などにより、元禄期を境に悪化していきました。(P134)                      東北地方の冷害や浅間山の噴火などによる天明の飢きんで、百姓一揆や打ちこわしが数多く起こるようになったため、田沼はその責任をとり、老中を退きました。(P137)                      【コラム】                      唐にわたった二人の若き僧侶 空海は、讃岐国(香川県)において洪水で決壊した満濃池を修築するなど社会事業にも尽力しました。(P54)                      鴨長明が見た自然災害 12世紀末の京都では大火や竜巻、飢きん、地震が相次ぎ、餓死者は2か月間に4万2千人余りにもなりました。『方丈記』は、災害を前になすべがない人々をまの当たりにした鴨長明が、この世の無常を説いた随筆として知られています。(P67)                      森林伐採と植林 林業の発達や新田開発の進展は、森林の減少という問題を引き起こしました。森林の急激な伐採が行われた地域では、頻繁に土砂災害が起こるようになりました。こうした状況を受け、幕府も対策に乗り出し、森林資源を守るため、植林を行うようになりました。(P127)                      大都市を襲った関東大震災 1923(大正12)年9月1日、神奈川県西部を震源とするマグニチュード7.9の大地震が東京や横浜を直撃しました。各家庭で食糧の準備をしている時間でもあったため、またたく間に大火となり、死者・行方不明者10万5千人以上、被災者340万人以上という大きな被害を出しました。住宅や工場が都市に密集していたことが、被害を大きくしました。(P227)                      震災当時の日記 地震で屋根瓦のずり落ちたのを見たととき、飛び火でだんだんと燃え広がって行くのを目撃したとき、実は初めて危険を感じた。飛び火は水を注ぐことで容易に防げると思っていた。しかし、この日の勢いでは到底とどめることはできないし、かつ、その水が止まっていたのである。(P227)                      【写真】                      関東大震災で廃墟と化した浅草(P227)                      【年表】                      鎌倉時代の新仏教と主な出来事(P69)</p>

「別紙2-8」 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
山 川		<p>【本文】 2011(平成23)年には東日本大震災が起こり、多くの人々の命が失われた。(P281)</p> <p>【写真】 東日本大震災での津波の様子 警察庁・復興庁の統計では東日本大震災による死者は1万9598人(震災関連死の死者数をふくむ)、行方不明者は2534人になる(平成30年12月28日現在)。津波による犠牲者が多く、また原子力関連施設が被災したため、将来にわたる対策が求められている。(P281)</p>	<p>【本文】 1782(天明2)年から東日本で数年にわたり続いた冷害や、浅間山噴火の影響による関東地方の大凶作で、米価は高騰し、多くの餓死者が出た。(P138) 1923(大正12)年9月1日、マグニチュード7.9の大地震が発生し、東京・横浜(神奈川県)などの大部分が被害を受けて壊滅的な状況におちいった(関東大震災)。死者・行方不明者は10万人以上を数え、被害総額は60億円をこえた。(P227) 1995(平成7)年に阪神・淡路大震災が…起こり、多くの人々の命が失われた。そのほかにも、2004(平成16)年の新潟県中越地震や2016(平成28)年の熊本地震、2018(平成30)年の北海道胆振東部地震など多くの被害が生じており、防災対策が求められている。(P281)</p> <p>【写真】 関東大震災の被害 震災後の復興事業を通じて東京や横浜は近代的な都市へと生まれ変わっていった。(P227) 阪神・淡路大震災 阪神・淡路大震災の死者は6400人をこえたが、その中には圧死者が多かった。(P280)</p>
日 文	<p>【コラム】 関東大震災 震災復興事業により、東京や横浜は都市計画に基づいて整備され、町の景観も大きく変わりました。(P235)</p>	<p>【本文】 2011年3月11日に起きた東日本大震災では、地震と津波による大きな被害が発生し、死者・行方不明者は2万2000人をこえました。(P289)</p> <p>【コラム】 私たちにできることー震災の教訓を未来に伝えるー 宮城県女川町は、東日本大震災によって、死者・行方不明者が800人をこえるなど、甚大な被害を出しました。(P291)</p> <p>【写真】 東日本大震災の津波で流された鉄道の線路と駅 (P261) 東日本大震災の津波 強い地震と巨大な津波による被害は、北海道から関東地方にまでおよびました。(P289) 女川いのちの石碑 宮城県内の石材店の協力や募金によって実現した石碑です。(P291)</p>	<p>【本文】 東京の下町は、1923(大正12)年9月の関東大震災によって、大きな被害を受けました。(P235) 1995年1月、阪神・淡路大震災が起きた際には、大地震にもたええられなかった高速度路が崩壊して、「安全神話」がくずれたといわれました。(P289)</p> <p>【コラム】 天明のききんど復興 1780年代に冷害にみまわれた東日本をおそったのは、浅間山の噴火でした。周辺地域に大きな被害をあたらただけでなく、広い地域に火山灰が降り、大凶作となりました。これにより、ほうだいな数の餓死者が出ました。(P149) 関東大震災 1923年9月1日、関東大震災が起こり、東京や横浜は壊滅状態となりました。被災者は約340万人、死者・行方不明者は10万人をこえました。(P235) 地震津波対策と災害の記憶の継承 この石碑は、1933(昭和8)年の昭和三陸地震津波の後、海抜50mのところに建てられました。このときの津波と、1896(明治29)年の二度にわたって地震と津波におそわれ、生存した住民が4人と2人という壊滅的な被害を受けていました。(P301)</p> <p>【写真】 浅間山の噴火(P149) 関東大震災のようす (P235) 阪神・淡路大震災でたおれた高速道路(P289) 死者1000人以上(推定)の大規模災害(P300) 岩手県姉吉の大津波記念碑(P301)</p> <p>【年表】 鎌倉仏教と時代背景(P81)</p>

「別紙2-8」 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】(中学校 社会 歴史的分野)

<p>発行者</p>	<p>防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い</p>	<p>東日本大震災の扱い</p>	<p>その他の自然災害の扱い</p>
<p>育鵬社</p>	<p>【本文】 震災後の東京は、後藤新平らによって新たな都市計画が進められました。(P229)</p>	<p>【本文】 2011(平成23)年には東日本大震災が起こり、死者・行方不明者は2万人近くに達しました。被災地の人たちの公共心やがまん強さ、責任感などは世界からたたえられました。(P280)</p> <p>【コラム】 東日本大震災で大きな被害をもたらしたのは、波の高さ10数m以上の大津波でした。死者・行方不明者の9割以上が津波によるものとされています。その中でも過去の教訓や伝承をふまえて難を逃れた人々もいました。</p> <p>岩手県宮古市のある地区には過去の三陸地震津波を教訓に建てられた「ここより下に家を建てるな」と刻まれた石碑があり、この地区の集落は高台にあって津波の被害を受けませんでした。また三陸地方に伝わる「てんでんこ(津波の時には各自で逃げる)」という言葉を防災標語としていた岩手県釜石市では、避難できた人々が数多くいました。(P285)</p> <p>【写真】 東日本大震災 震災による津波は、宮城県、岩手県、福島県の沿岸部などに大きな被害をあたえた。上は宮城県名取市の住宅におし寄せられる大津波。左は、避難所生活の中で、協力して食事をつくる宮城県石巻市の人々のようす(P280) 被災地ご訪問 天皇、皇后時代に東日本大震災の被災地を訪問される上皇、上皇后両陛下(P282)</p>	<p>【本文】 1783(天明3年)、浅間山の噴火や天候不順による冷害で、多数の餓死者を出す天明の大きさんが起こりました。(P138) 1923(大正12)年9月1日、関東地方で発生した大地震は東京・横浜という人口密集地を直撃しました(関東大震災)。この地震は死者・行方不明者10万数千人、焼失家屋約45万戸という大被害をもたらしました。(P229) 1995(平成7)年の阪神・淡路大震災(P280)</p> <p>【コラム】 わが国の地震の被害について最も古い文書記録は、『日本書紀』にある、推古天皇の時代の599年に地震があり建物がすべてくずれたとという記述です。その後の歴史書でも、869(貞観11)年に東北地方で起きた貞観地震について、人々は立っていられず多くの家屋が倒れ津波で1000人近くが死んだ、と記されています。また当時の人々々が書いた日記などにも地震の記述は登場します。15世紀末に起きた明応地震では、各地で津波が発生して合計で数万人が死んだことが、人々が書き残したのから読み取れます。江戸時代末の安政年間(1854～60)、わが国では大地震が多発し、なかでも安政東海地震と安政南海地震は震源の異なる2つの大地震が2日連続で起きるといふ異例のものでした。この地震で房総半島から四国・九州までの太平洋側が大津波に襲われ、それぞれ数千の死者を出しました。その翌年にも江戸を中心に大地震が発生し、家屋倒壊や火災により江戸の町民約1万が死んだとされます。安政南海地震の際、大阪では湾内の大船が津波によって水路に流入して川船を多数押しつぶし、川船に避難していた人々が多々亡くなりました。そこで翌年、被害と教訓を伝える石碑が木津川の渡し場に建てられました。また紀伊藩佐村(和歌山県広川町)では、地震直後の夕闇に海から寄せる津波から村人が逃げまどうなか、豪商の濱口梧陵が田んぼに積まれた稲わらの山(稲むら)に火をつけ、村人を高台へと誘導しました。地震後も濱口は復興や防災工事に私財を投じて尽力し、彼の逸話のちに「稲むらの火」の名で広く世に知られました。その後、江戸時代で柄はナマズが地震を起こす」という考えのものが多く、当時の江戸庶民の地震に対する思いがえがかれていました。また同時に、社会に対する風刺や不満、願望なども絵にはこめられていました。明治時代以降も大地震はたびたび起こりました。1896(明治29)年の明治三陸地震では、東北の三陸沖で発生した地震による大津波が岩手県・宮城県などの沿岸部を襲い、死者は2万人以上にのぼりました。</p>

「別紙2-8」【防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
育鵬社			<p>この地域は、1933(昭和8)年の昭和三陸地震でも大津波に襲われ、数千人の死者・行方不明者を出しました。1923(大正12)年9月に発生した関東大震災では、10万人以上もの死者を出し、その約9割が地震後の火災によるものでした。そのため震災後は耐震耐火建築が普及するようになり、東京復興計画でも避難場所としての公園建設など、地震対策が意識されました。1995(平成7)年の阪神・淡路大震災では、早朝の地震だったために就寝中の被災が多く、家屋倒壊などで6000人以上が亡くなりました。また救助が必要な人も多数発生し、迅速な救助活動の重要性が強く唱えられました。…このようにわが国は、古来から数々の大地震に見舞われてきました。しかしまた、わが国には地震にまつわる伝承や教訓、逸話が数多く残されています。こうした伝承や教訓を受け継いで生かし、後世に伝えていくことは、私たちの課題でもあります。(P284-285)</p> <p>【写真】                      浅間山の噴火 浅間山噴火は世界の気候に影響し、ヨーロッパでも、それによる不作が起きたといわれている。(P138)                      関東大震災 写真は発生直後の東京・日比谷交差点。発生在正午直前で、多くの家が火を使う時間帯だったため、あちこちで火災が発生して燃え広がった。(P229)                      大地震両川口津波記石碑 安政南海地震での教訓を伝える石碑。文字の墨入れが毎年行われている。(P284)                      鯨絵 庶民たちが大ナマズをのしりながらたたいたしている。一方、左上の大工職人たちは地震の復興工事で利益を得たことから人々を止めようとしている。こうした地震とナマズを結びつける考えは江戸時代前からあった。豊臣秀吉が家臣に送った「伏見の普請、鯨大事にて候(伏見城の築城では地震対策が重要だ)」という手紙は、それが文章で表された最も古い例とされている。(P285)                      三陸地震の津波被害とその教訓を伝える石碑(P285)</p> <p>【年表】                      わが国で発生したおもな大地震(P284)</p>

「別紙2-8」【防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	防災や自然災害時における関係機関(国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
学び舎	<p>【本文】</p> <p>岩手県大槌町には、「大きな地震が来たら戻らず高台へ」と書き込まれた木碑(木柱)があります。2011年3月11日、午後2時46分。三陸沖でマグニチュード9.0の大地震が起きました。最大震度7の揺れと国内観測史上最大の津波により、東北・関東地方を中心に広い範囲で被害が出ました(東日本大震災)。この町でも震災で1200人余りが犠牲になりました。</p> <p>町には、昭和三陸津波(1933年)の教訓が刻まれた石碑がたくさんありました。しかし、2011年の震災当時中学生だった少年が高校生になったときに、木碑を建てることを思いつきました。少年は住民と話し合い、あえて朽ちる木を使い、建て替えるたびに震災を思い出し出してもらおうと、4年に1度の建て替えをすることにしました。</p> <p>この大地震は、福島県の沿岸部も襲いました。双葉町と大熊町にまたがる東京電力福島第一原子力発電所では、高さ14mの津波が堤防を乗り越え、敷地内に大量の海水が流れ込みました。(P274)</p> <p>【写真】</p> <p>東日本大震災 津波が到達した時刻で止まった学校の時計(P292)</p>	<p>【本文】</p> <p>5世紀から6世紀にかけて、群馬県の榛名山は、噴火をくり返しました。火山灰が、築かれたばかりの古墳の上にも積もりました。ムラや水田は、ふり積もった軽石でうまいました。(P32)</p> <p>浅間山の噴火にもみまわれ、百姓一揆・打ちこわしなどがたびたび起こるようになりました。(P119)</p> <p>【コラム】</p> <p>関東大震災 いわれなく殺された人びと 1923年9月1日、マグニチュード7.9の大地震が関東地方を襲った。建物がくずれ、強風を巻き起こす火災が発生して、死者・行方不明者は10万5000人にのぼった。東京市や横浜市では、多数の家屋が被災し、多くの避難民が出た。(P207)</p> <p>【写真】</p> <p>関東大震災(P207) 阪神淡路大震災(P292) 熊本地震(P292)</p>	

発行者	一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目	そのうち、原子力発電についての記述の概要
東 書	「産業と資本主義の発展」(P194) 「経済大国日本」(P263) 「日本社会が直面する課題」(P270-271) 「日本のエネルギーのこれまで」(P272-273)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】2011年の東日本大震災は、福島第一原子力発電所の事故を引き起こしました。</li> <li>・【コラム】原子力発電が、石油危機を通して重視されたこと、その特徴と併せて、日本のエネルギーに占める割合が増加したことを紹介している。また、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、安全性についての信頼が大きく損なわれたこと、事故後は日本のエネルギーに力を入れる割合を大きく低下していることを説明している。</li> <li>・【写真】福島第一原子力発電所の原子炉への放水</li> </ul>
教 出	「鉄道や海運の広がり」(P197) 「大戦景気」(P212) 「石油危機と貿易摩擦」(P271) 「移り変わる戦後の街を訪ねて」(P274-275) 「災害と向き合う」(P280-281)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】震災の際に、福島第一原子力発電所で深刻な事故が発生し、大量の放射性物質が外部に漏れ出しました。この事故は、今後のエネルギー政策に改めて課題を投げかけるものとなりました。</li> <li>・【写真】事故が起こった福島第一原子力発電所 現在も廃炉にむけた作業が進められています。</li> </ul>
帝 国	「日本の重工業の発展」(P199) 「高度経済成長と日本経済の国際化」(P270) 「石油危機と日本経済」(P271) 「環境と資源エネルギー」(P283)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】原子力発電など、石油以外のエネルギー資源の開発が進められるようになりました。</li> <li>・【本文】これまで地球温暖化対策として、原子力発電が注目されてきました。しかし、2011年の東日本大震災における福島県の原子力発電所の事故をきっかけに、エネルギー確保の方法が改めて議論され、そのなかで太陽光や地熱などの再生可能エネルギーが、さらに注目されるようになりました。</li> <li>・【コラム】東日本大震災と津波により、福島県の原子力発電所で事故が起こり、放射性物質が外部に漏れ出したこと、それに伴う影響を紹介している。</li> <li>・【写真】事故を起こした直後の福島第一原子力発電所</li> </ul>
山 川	「重工業の形成」(P203) 「労働者と社会問題」(P206-207) 「高度経済成長」(P270) 「高度経済成長の終わり」(P271) 「冷戦の終わり」(P274-275)  「現在の日本の課題」(P281)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】1986年、チェルノブイリ原子力発電所で事故が起こった(P275)</li> <li>・【写真】チェルノブイリ原発事故 ソ連のウクライナにあったチェルノブイリ原子力発電所で爆発事故が発生し、広範囲に放射性物質による汚染が起こった。</li> <li>・【本文】日本では東日本大震災の原子力発電所事故以降、電力などのエネルギー源をどうするかが議論となっている。</li> <li>・【写真】東日本大震災での津波の様子 津波による犠牲者が多く、また原子力関連施設が被災したため、将来にわたる対策が求められている。</li> </ul>

発行者	一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目	そのうち、原子力発電についての記述の概要
日 文	「イギリスの産業革命」(P162) 「山本作兵衛の炭坑記録画」(P211) 「経済の高度成長」(P278) 「経済大国・日本」(P282) 「安心・安全のゆらぎ」(P288-289)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】福島第一原子力発電所では、メルトダウン(炉心溶融)が起こるといふ重大な事故が発生し、放射性物質の拡散で周辺住民が強制退去させられました。国民のあいだには、科学技術の限界や原子力エネルギーの是非に関する議論が高まりました。</li> <li>・【写真】震災直後の福島第一原子力発電所 1・3・4号機の原子炉をおおう建物が爆発によって大きくこわれていきます。現在、原子炉を廃止する作業が進められています。</li> </ul>
育鵬社	「工業の発展」(P202) 「石油危機」(P272) 「さまざまな課題」(P280)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】津波などによって起きた福島県の原子力発電所の事故で放射性物質がもれ出したため、これからのわが国のエネルギー政策をどうすべきかが議論されています。</li> </ul>
学 び 舎	「手作業から機械へ」(P142) 「漁村にできた製鉄所」(P195) 「原子力の夢を追う」(P259)  「農村から都会へ」(P263) 「中東戦争と石油危機」(P269) 「変わりゆく被災地の風景」(P274-275)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】アメリカの大統領は、原子力は平和利用できると国連で演説し、平和利用を推進する国際機関がつくられました。日本でも、アメリカの働きかけによって、1955年から原子力平和利用博覧会が各地で開かれ、この年、原子力基本法が制定されました。原子力発電の危険性は、国民には伝えられませんでした。アメリカは、西側の陣営の国には、原子力発電の技術と核燃料を提供しました。日本では、1963年に実験用の原子炉で初めて発電が行われ、「鉄腕アトム」のテレビ放映が始まりました。1970年、敦賀原子力発電所(福井県)からの電気で、大阪万国博覧会の開会式の灯りがともされました。</li> <li>・【写真】原子力平和利用博覧会</li> <li>・【年表】アメリカとソ連の原子力開発競争</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】東京電力福島第一原子力発電所では、高さ14mの津波が堤防を乗り越え、敷地内に大量の海水が流れ込みました。すべての電源が失われ原子炉の冷却ができなくなったため、燃料棒が2800℃以上になって溶け落ち(メルトダウン)、建屋で水素爆発も起こりました。放出された放射性物質が飛び散り、陸地も海も汚染しました。廃炉に向けた作業は続いています。困難をきわめています。福島原発の事故の影響で、福島県の11市町村の8万人以上の住民は、政府の指示により、着の身着のまま避難しました。</li> <li>・【コラム】世界の原発 福島原発の事故後の諸外国の原発を含めたエネルギー政策について記述。</li> <li>・【地図】チェルノブイリ原発事故による放射能汚染地図、福島第一原子力発電所からもれた放射能の広がり</li> </ul>



## 「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)

発行者

「オリンピック・パラリンピックと日本」

・【コラム】近代オリンピックの成立 古代のギリシャでは、紀元前9世紀ごろからオリンピックアで「オリンピック祭典競技」が開かれ、4年に一度、各都市国家(ポリス)の代表が陸上競技や格闘技を競い合いました。これは宗教行事であったため、この間、ポリスは戦争を中断して参加しました。これを「聖なる休戦」といいます。古代オリンピックは、393年を最後として幕を閉じました。それから1500年あまり後の1896(明治29)年、フランスの教育者であったクーベルタンの尽力で、近代オリンピックの第1回大会がギリシャのアテネで開催されました。クーベルタンが唱えたオリンピックの精神とは、スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまなちがいを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもつて、平和でより良い世界の実現に貢献することでした。1924(大正13)年を機に冬季オリンピックが独立しました。その後、2020年の東京大会に至るまで、夏季32回、冬季23回の大会を重ねる世界になりました。また、パラリンピックは、イギリスで始まった、障がいのある人たちが対象とする国際的な競技大会が起源で、現在では、オリンピックの開催年に、同じ都市で行われています。

日本のオリンピックへの参加 日本は「オリンピック運動の父」とされるのは、東京高等師範学校(現在の筑波大学)の校長を務め、柔道の普及に力をつくした嘉納治五郎です。嘉納は1909年、アジアで初めての国際オリンピック委員会(IOC)委員に就任しました。これが契機となって、1912年にストックホルム(スウェーデン)で行われた第5回大会に、初めて日本代表が参加しました。嘉納の多大な努力によって、1940年の第12回大会は、初めて欧米をはなれて東京で開催されることが決まりました。当時はまだ飛行機が発達しておらず、ヨーロッパから選手団が日本に来るには船かシベリア鉄道経由しかなく、いずれも20日近くかかりました。そうした中で東京での開催が決定されたことは画期的でした。ところが、1937年に日中戦争が始まり、東京でのオリンピック開催が困難になりました。そこで、ヘルシンキ(フィンランド)での開催準備が進められましたが、これも1939年にソ連がフィンランドに侵攻したことで開催できなくなり、大会自体が中止になりました。ロンドン(イギリス)で開催予定だった第13回大会も、第二次世界大戦の勃発で開催できませんでした。オリンピックは、平和や国際協調という精神をかかげているにもかかわらず、ときに国際問題にほんろうされたのです。

東 書

日本で開催されたオリンピック・パラリンピック 1964年10月10日、東京で第18回オリンピック大会が開催され、93の国と地域から5152人の選手が参加し、20競技163種目を競い合いました。東京大会では初めて柔道が競技種目に加わりました。「東洋の魔女」と呼ばれた日本の女子バレーボールチームが金メダルを獲得し、エチオピアのマラソン選手のアベベなども注目を集めました。また、東京オリンピックの後には、パラリンピックも開かれました。このアジア初のオリンピックに関して、首都高 roadway や東海道新幹線が開通するなど、高度経済成長が加速され、日本の復興が世界に印象付けられました。また、国内でスポーツラブが一般に広がるなど、スポーツが生活の一部として普及する契機になりました。さらに、パラリンピックの開催で障がい者スポーツが広く知られるようになり、その後、1972年に札幌、1998(平成10)年に長野で冬季大会が開催されました。そして、2020年に再び東京で夏季大会が開かれる予定です。今回の東京オリンピック・パラリンピックでは、都市化や高齢化など、成熟社会としてのさまざまな課題を解決する機会にしていくことが、ビジョンとしてかかげられています。(P242~P243)

・【写真】円盤投げがかがれた古代ギリシャの陶器、ピエール・ド・クーベルタンの陶器、オリンピック・シンボル、1912年のストックホルム大会に参加する日本選手団、ベルリンで行われた第11回オリンピックの聖火リレー、1940年の東京オリンピックの開催が決定された、国際オリンピック委員会委員総会に臨む嘉納治五郎、1940年に開催予定だった東京オリンピックのポスター、東京オリンピックでの女子バレーボールの決勝戦(P242~P243)

「戦後日本の歩みを考えよう」

・【写真】東京オリンピックの開会式(P250)

「国民生活の変化と公害」

・【本文】1964年には東京オリンピックの開会式(P262~263)

・【写真】1964年の東京オリンピックの開会式(P262~263)

発行者	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)	
教 出	<p>「ギリシャの文明」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】壘に描かれた短距離走 古代ギリシャでは、4年に1度、各ポリスの代表が陸上競技や格闘技で競い合う祭典(オリンピック)が開かれました。(P26)</li> <li>「日本経済の高度成長」</li> <li>・【本文】1964年に開催された東京オリンピック以後は、輸出の好調に支えられて貿易収支が黒字を続け、1968年の国民総生産(GNP)は、アメリカに次ぎ資本主義世界で第2位になりました。(P270)</li> <li>・【写真】東京オリンピックの開会式(P270)</li> <li>「平和を築くために」</li> <li>・【写真】パルクとパラリンピックの開催式(P283)</li> <li>「オリンピックとパラリンピックの始まり」</li> <li>・【コラム】第1回オリンピックは、1896年、ギリシャのアテネで開催されました。フランスのクーベルタンが、古代ギリシャのオリンピックア地方で行われていた「オリンピック祭典競技」の復活を提案したのが、近代オリンピックの始まりです。その後オリンピックは、人間育成と世界平和を目的として、夏季・冬季大会が4年に一度開催される世界的なスポーツの祭典となりました。パラリンピックは、第二次世界大戦で負傷した兵士のリハビリの一環として、1948年にイギリスの病院で開かれたのが始まりで、1952年に国際大会となりました。その後、障がい者アスリートによる競技スポーツへと発展し、1988年のソウル大会からは、現在のようオリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになりました。(P285)</li> <li>・【写真】オリンピックの開会式で空に描かれた五輪のマーク(P285)</li> <li>・【写真】現在のパラリンピックのシンボル(P285)</li> </ul>	<p>「高度経済成長と日本経済の国際化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】1964年に東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、それに合わせて各地に高速道路が造られ、東海道新幹線も開通しました。(P270)</li> <li>・【写真】東京オリンピックの開会式(P270)</li> <li>「世界との結び付き」</li> <li>・【本文】2020年に東京でオリンピック・パラリンピック大会が開催されます。(P282)</li> <li>・【写真】東京オリンピックのメイン会場となる新国立競技場 1964年の東京大会の会場だった旧国立競技場は建て替えられ、2020年の東京大会の会場となる新国立競技場が2019年には完成予定です。この大会が終わった後は、サッカーやラグビーなどの競技大会で使われる予定です。(P282)</li> </ul>
山 川	<p>「ギリシア文明と民主政治の始まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】4年に一度開かれるオリンピックの祭典は、ギリシア人最大の祭り、近代オリンピックの基になった。(P20)</li> <li>「現代の日本と世界(章の導入)」</li> <li>・【写真】東京オリンピック(P255)</li> <li>「高度経済成長期の社会と文化」</li> <li>・【本文】1964(昭和39)年にはオリンピック東京大会が開催された。(P273)</li> <li>・【写真】オリンピック東京大会(東京オリンピック) 予定されていた1940(昭和15)年の東京開催が日中戦争で中止になって以降、アジアで初めてのオリンピックが1964(昭和39)年10月に東京で開催され、戦後復興を国内外に示した。(P272)</li> </ul>	

発行者	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)
日 文	<p>「探してみよう 私たちと歴史とのつながり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】オリンピック 今から2800年ほど前、古代ギリシャでオリンピックが始まりました。紀元4世紀にとだえてから1500年の時をへて、近代オリンピックが誕生し、今にいたっています。(巻頭Ⅱ)</li> <li>・【写真】徒競走をえがいた古代ギリシャの壺、近代オリンピック第1回アテネ大会、第31回リオデジャネイロ大会、第23回冬季オリンピック平昌大会(巻頭Ⅱ)</li> </ul> <p>「都市国家の成立」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】市民たちは、ギリシャ神話とよばれる共通の神々や英雄たちをめぐる物語に基づいてオリュンピア競技会(古代オリンピック)のような祭典を行い、同じギリシャ人としての意識を高めていきました。(P24)</li> <li>・【写真】オリンピック東京大会の開会式の様子 明治神宮外苑競技場を取りこわして、1958年に完成しました。1964(昭和39)年には94か国の選手を集め、アジアで初めて開いたオリンピックの会場になりました。(P260)</li> <li>・【写真】新国立競技場 これまでの国立競技場を取りこわして、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて建設が進められています。(P261)</li> </ul> <p>「国民生活の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】1964年のオリンピック・パラリンピック東京大会に合わせて、名神高速道路や東海道新幹線が開通する(P279)</li> <li>・【写真】オリンピック東京大会の開会式 この大会は、日本の戦後復興と国際社会への復帰の象徴となりました。(P279)</li> </ul> <p>「オリンピック・パラリンピックの歴史」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】近代オリンピックの発展 オリンピックは、人間の尊厳を守る平和な社会の推進と、人類の調和ある発展を目的とすスポーツの祭典です。植民地をもつ帝国主義諸国が対立していた19世紀末、フランスのクーベルタンは、古代ギリシャではオリンピックには休戦したという故事にちなみ、スポーツによる世界平和を実現するために、オリンピック開催をよびかけました。1896年、第1回オリンピック大会が実現しましたが、参加はヨーロッパの14か国から男性のみ241人で、競技は11種目に過ぎませんでした。その後大会は拡大し、女性を含む参加選手も増加しました。1924年からは冬季大会も行われています。大会のようすは、20世紀に発達したマスメディアを通じて、世界に伝えられました。20世紀後半に独立した新興国も積極的に選手を参加させました。こうして、オリンピックは世界最大で最高レベルのスポーツ競技会としての地位をほこり、2016年のリオデジャネイロ大会では、206の国と地域の約1万1000人が参加し、28競技306種目が行われました。しかし、スポーツによる平和という理想の一方で、オリンピックは国際政治の頭等やナショナリズムにも翻弄されました。戦争による中止が3回ありましたが、1936年ベルリン大会は、ナチス・ドイツによる国威発揚に利用されました。第二次世界大戦後にも、人種差別問題や冷戦下の対立の影響で、参加をボイコットする国もありました。パラリンピックの誕生 障がいのあるアスリートによる国際競技大会がパラリンピックです。第二次世界大戦の戦場で障がいを持った元兵士のリハビリテーションの一環として、イギリスで開かれたスポーツ大会が、その出発点です。これが国際大会に発展していき、1960年のローマ大会から、大会は原則としてオリンピックと同じ年に同じ国で開催されることになりました。当初は車椅子利用者だけの大会でしたが、のちにほかの障がいのある人も出場できるようになり、1976年から冬季大会も開かれていきます。1988年のソウル大会から正式にパラリンピックと命名され、以後オリンピック閉幕後に同じ会場で開催されています。そして、スポーツを通じ、障がいのある人々とともに生きる多様性のある社会の実現を目指しています。</li> <li>・【本文】オリンピック初参加は、1912(大正元)年の第5回ストックホルム大会で、それを導いたのは、柔道の創始者で教育者の嘉納治五郎でした。のちに嘉納は、オリンピックの日本開催に熱心に取り組み、その結果、東京は1940(昭和15)年オリンピックの開催都市となりました。しかし1938年、日本政府は、日中戦争の影響を理由に東京大会を中止させました。第二次世界大戦で敗北した日本は、1952年ヘルシンキ大会でオリンピック復帰を果たし、さらに、オリンピックの東京招致にも成功しました。1964年のオリンピック・パラリンピック東京大会は、戦争から復興し、高度経済成長のたどってきた日本の姿を世界に伝えることになりました。その後日本は、1972年札幌、1998年長野と二度の冬季大会を開催しました。そして、2020年、東京で再びオリンピック・パラリンピックが開催されました。国境をこえた友情やフェアプレーの精神をもって、全力で競い合うアスリートたちの姿に、世界中の人々の視線が集まることでしょう。(P280~281)</li> <li>・【年表】日本に關係の深い主な夏季オリンピック・パラリンピックの開催地と年次表</li> <li>・【写真】人見絹枝800m競走で銀メダルを獲得、1940年の東京大会のために用意されたポストター、東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレム(P280~281)</li> </ul>

発行者	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)
育鵬社	<p>「ギリシャ文明」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】競走のようすがえがかれた壺 ギリシャ南部のオリンピックアでは4年に一度、スポーツ競技を行うオリンピックアの祭典が開かれ、ギリシャ各地の人々が参加した。これを起源に19世紀末、近代オリンピックが始まった。(P32)</li> <li>「現代の世界へようこそ(章の導入)」</li> <li>・【コラム】1964(昭和39)年、敗戦から約20年を経て、奇跡の復興をとげた日本は、アジア初のオリンピック大会を東京で開催し、世界に日本の“復活”を示しました。…2020(令和2)年、オリンピック大会がふたたび東京で開催されます。(P260)</li> <li>「高度経済成長」</li> <li>・【本文】1964(昭和39)年には、アジア初のオリンピックが東京で開催され、これに合わせて東海道新幹線や高速道路も開通しました。(P270)</li> <li>・【写真】東京オリンピック開会式の日本選手団入場のようす(P270)</li> <li>「世界のための日本の役割」</li> <li>・【本文】2020(令和2)年の東京オリンピックとパラリンピックに続いて、2025(令和7)年には大阪でふたたび国際博覧会(大阪・関西万博)が開かれる(P281)</li> <li>「オリンピック・パラリンピックと万博のレガシー」</li> <li>・【コラム】1940(昭和15)年に東京オリンピックが開かれることが決まっていたが日中戦争の影響で中止され、「幻の東京オリンピック」となりました。平和が訪れた1964(昭和39)年の東京オリンピックは、東海道新幹線や東京モノレールが開通し、首都高速道路の整備が進むなど、高度経済成長を後押ししました。会場となった日本武道館などは、今もスポーツや文化の場として親しまれています。こうした、オリンピックがもたらすプラスの影響を近年、レガシー(遺産)と呼ぶようになりました。…2020(令和2)年の東京オリンピック・パラリンピックと2025(令和7)年の大阪・関西万博をめぐっては、高齢者や障害者にやさしい街づくりやボランティア精神、外国人観光客をむかえる「おもてなしの心」などを受けつぐことがめざされています。(P281)</li> <li>・【写真】幻の第12回東京オリンピックのポスター、1964年第18回東京オリンピックのポスター、2020年第32回東京オリンピックのエンブレム(P281)</li> </ul>
学び舎	<p>「消えた東京オリンピック」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】第12回夏季オリンピック(1940年)は、東京(冬季は札幌)で開催されることだったが、1936年の国際オリンピック委員会で決定された。しかし、1937年に日中戦争が激しくなると、政府は鉄などの重要物資の使用をおさえ、戦争遂行に直接必要でない建設工事中止を求め、鉄や皮革などの使用を制限した。このため、オリンピックスタジアムの建設は困難となった。陸上競技のスパイク・砲丸・ハンマー・槍・円盤・ハードルなども準備できなくなった。一方、スイスのオリンピック委員会は、「日本が中国に対する軍事行動をやめなければ、東京大会と冬季の札幌大会への参加を取りやめよう各国に呼びかける」と決議した。実際に、アメリカなどの不参加が予想された。このようななかで、日本政府は、1938年、東京大会と冬季の札幌大会の開催を返上することを決めた。(P223)</li> <li>・【写真】東京大会ポスター(公募作品)／武人にはわがデザインされている。(P223)</li> <li>「東京オリンピック」</li> <li>・【本文】1964年、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催され、テレビ放送は人工衛星で海外にも同時中継されました。参加した国と地域には、新たに独立したアジア・アフリカの国々が加わり、それまでで最高の93となりました。マラソンでは、エチオピアのアベベ選手が優勝しました。閉会式では、この日にイギリスから独立したザンビアの選手が、新しい国旗を持って行進しました。アメリカや西ヨーロッパなど西側の資本主義国、ソ連など東側の社会主義国がメダル争いを演じました。しかし、アジアでは、中国・北朝鮮・北ベトナムなどは参加できませんでした。(P264)</li> <li>・【写真】東京オリンピック開会式／日本の選手団355人中、女子は61人。沖縄からの選手参加はなかった。</li> <li>閉会式で行進するザンビアの選手、チャスラフスカ選手(チェコスロバキア)／東京大会の女子体操の個人総合で優勝した。1968年のメキシコ大会でも連続優勝した。(P264)</li> <li>・【表】アジアで開かれたオリンピック(夏季)(P264)</li> </ul>

「別紙3」 【 (2) 構成上の工夫 】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫	ユニバーサルデザインの視点	デジタルコンテンツの扱い
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入部で、単元全体を貫く探究課題を立て、1単位時間の学習課題、節ごとの課題など、「問い」を軸に構造化した課題解決的な学習の流れを示している。</li> <li>・小集団での参加型学習を設定している。</li> <li>・歴史的な見方・考え方を働かせる場面を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラットデザイン、ユニバーサルデザインフォンを使用している。</li> <li>・資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いている。</li> <li>・色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用している。</li> <li>・ゴシック体の振り仮名を使用している。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Dマークや二次元コードを付して、専用のウェブページから情報を得られるようにしている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容をイメージできる主題と学習課題を明示し、課題意識をもたせるようにしている。</li> <li>・興味・関心を広げるコラムや歴史を様々な側面から掘り下げるテーマ学習のページを設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚等の特性をふまえた、カラーユニバーサルデザインやレイアウト、養頭方法、ユニバーサルデザインフォンなどの工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まなびリンク」を設け、学習に役立つ様々な情報を得られるようにしている。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の全体像や学習活動の位置付けの明示、導入の工夫、見通し・振り返り活動の充実を図っている。</li> <li>・様々な人々の営みや連携・共同している姿を描いている。</li> <li>・歴史的な「見方・考え方」に基づく、論理的な言語活動や、当時の様々な立場や選択を踏まえて考察する活動を充実させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取りやすい表現となるよう配慮している。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォンを使用している。</li> <li>・色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使用している。</li> <li>・折れ線グラフなどで線種を変えるなどの工夫をしている。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードにより、資料の一部を、タブレットパソコンなどで閲覧できるようにしている。</li> </ul>
山川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象を、時期・推移・因果関係・差違などに着目しつつ捉えることができるように発問を掲載している。</li> <li>・美術品や史跡などから、課題を話し合い、考察できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版をできる限り大きく掲載するとともに、地図・グラフはカラーユニバーサルデザインに配慮している。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードにより、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見たり、音声を聞いたりすることができるようになっている。</li> </ul>

「別紙3」 【 (2) 構成上の工夫 】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫	ユニバーサルデザインの視点	デジタルコンテンツの扱い
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の始めの導入ページで見通しをもち、「見方・考え方」を働かせながら考察をし、振り返りの場面のまとめのページで、学びの成果や成長を確認することができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインフォントを使用している。</li> <li>・多様な色覚のタイプに配慮したカラーユニバーサルデザインを使用している。</li> <li>・振り仮名を全てゴシック体にしてしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルマークを付して、ウェブページにあるデジタル資料で、学習を深めることができるようにしている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ→調べる→まとめる→表現する」問題解決型学習で教材を配列し、知識・思考・判断・表現の一体化を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版は色覚特性を踏まえたカラーバリエーションに配慮している。</li> <li>・ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮している。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査活動を行う際の便利な道具として、ボイスレコーダー、カメラやビデオなどを紹介している。</li> <li>・発表のしかたのコツの一つに、プレゼンテーション用ソフトを紹介している。</li> </ul>
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の始めに、単元のテーマに基づいた各地の様子を表す写真や資料を配置し、興味・関心を引き出している。</li> <li>・見開き2ページに図版を配置し、観察することで様々な発見や疑問が出るようにしている。</li> <li>・思考力・判断力・表現力をグループ活動等を通して深められるように課題を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史地図・グラフをカラーユニバーサルデザインにしている。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史を体験する」のなかで、「インターネットで『洛中洛外図屏風』を見る」や「山本宣治の人物調べ」などを掲載し、インターネットを使った調べ学習の方法などを紹介している。</li> </ul>